無産階級戰鬪雜誌

第五年 ◆ 十二月 ◆ 第十二號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

誌代一ケ年分拂込者にマルクス大寫眞を無代贈呈

本號一瞥

反動を打倒せ……卷頭言

自助會大會と左翼の戰術……長尾桃郎

朝鮮共產黨事件被告の拷問

警官に對する告訴……布施辰治

同人時評

◇唐生智の沒落と武漢政府の崩壞

◇朝鮮共產黨公判とその拷問事件

◇「統一戰線をめぐる山川黨の策動」

◇勞働農民黨の態度その他

昭和二年度の社會運動を見る……佐藤[illegible]郎

評議會の幹部諸氏に質す……工[illegible][illegible]市

農民運動の現狀に就て……上杉定[illegible]

全土戰報

飛報二三……野村[illegible]一

暴壓に面して……佐[illegible][illegible]郎

風上におけぬ奴……H生

大牟田の同志に與ふ……愛[illegible]生

團結して戰へ……丸山正之

プロレタリヤ青年の使命……小林流[illegible]

會津地方の無産者運動……遠山汗名

ロシヤ革命記念日……富井[illegible]二

團結の力を示せ……小[illegible][illegible][illegible]二

福田博士に與ふ……向軍治

十一月七日

支那に於ける革命運動と勞働運動……日堂則[illegible]

無產階級と植民地民族……金光旭

講座 國際勞働運動……淺野研眞

坑夫の唄……[illegible]地北[illegible]

創作 小鼓の音……中島安太郎

社告

全國三萬五千の同志諸君

いろいろな、難關を突破して日本の無產階級は昭和二年を送らんとしてゐる。かへり見れば、この年こそ反動政治の横行した記念すべき年であつた。金融恐慌後の支配階級の醜策を見よ、あらゆる奸策を弄して無產者の叫びをじうりんしたかを見よ植民地の兄弟に加へられたあの非人道的な拷問事件を見られよ。一つとして吾々の上にその暴壓の手をゆるめられた事とてもなかつたのである。

しかしながら吾々は奮起して支配階級の暴壓と戰ひ、暴壓を戰ひつぶさねばならない。白色の妖怪天下を濶歩す。されば「進め」十二月號の表紙は吾が無產階級の決意を示せるものである。諸君は讀み終へたらこの表紙をポスターとして使用されん事を望む。

進めの同志を一人づゝふやせ

進めの表紙を街頭に張り出せ。

勇猛果敢なる鬪士諸君

最後の制限議會五十四議會は迫つた。吾等は、かの府縣議戰によつて暴露された普選の徹底を要求しなければならぬ、供託金制度の撤廢、言論出版結社集會の自由、二十歳以上の男女へ選擧權を、朝鮮、臺灣の同志兄弟にも選擧權を、投票日の公休制、及び給料の全額支拂ひ、大選擧區制の實施を大衆運動のスローガンとせよ、無產階級は小作法の制定、小口預金者救濟、失業者救濟、最低賃銀法、健康保險法の改正、惡法の撤廢を要求して議會に迫れ。こうした一般の血のしたゝる樣な要求を放つておく樣な議會なら、速かに解散を要求し信を大衆に問へと叫ばねばならぬ。

一九二七年の最後の勇氣を振ふ時は來た

全國の同志諸君

「進め」をポスターとして、ビラとして街頭に張り出せ。

◆原稿締切毎月九日を嚴守せよ

會計係より

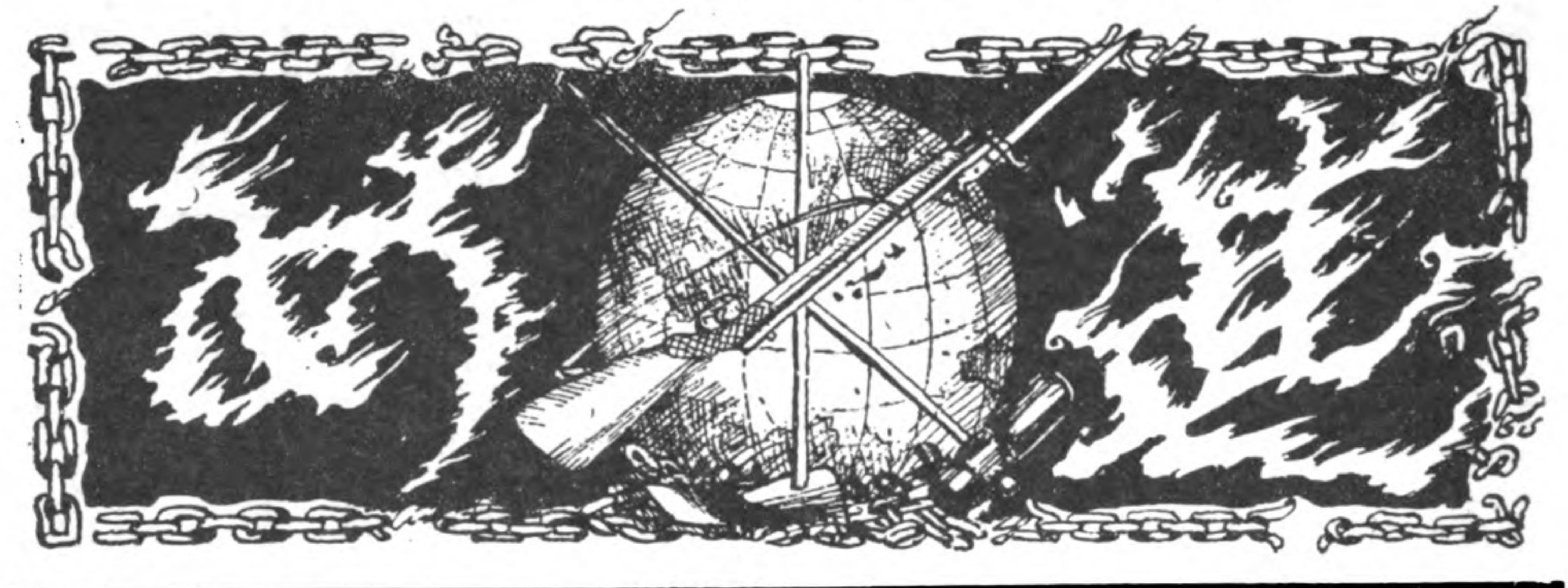
本誌の讀者たらんとする諸君は左の規定を必ず實行して下さい。

一、見本請求は十錢郵便切手を封入する事
二、用件は簡單明瞭に書く事時候見舞など必要なし
三、住所氏名を明瞭なるべく階書で書く事
四、本社は集金郵便を用ひないから一切前金の事
五、誌代拂込みは振替にて送る事
六、住所移轉の通知には舊住所併記の事

〔進め社の振替口座は　東京六九八五三番〕

申込は事理の都合上本部會計係宛へ願ひます。

萬國の無産者團結せよ



第五年■戰鬪■進め■雜誌■第十二號

反動を打倒せ

恰度、幕末時代、徳川の執政全く亂れて、當時の新興分子は京都を中心として幕府に對抗した如く、今や、資本主義は内部機構の必然的破綻より、その反動的傾向は、無産階級に對して極度なる經濟的斷壓を展開した。そしてその反動は、政治權力との密接なる結合を遂げて、益々反動的暴威を擴大し、更にまた、我が無産階級陣營内に於いて、常に無定見なる政策を以て當爲的運動のみにふける社會民衆黨勞働總同盟、日本農民黨日本農民組合同盟等の一派は、この反動的傾向に合流して、最後の逃れ場を發見しやうとする傾向をなしてゐる。また、劍劇的信者たる盲目の徒、建國會その他等々の國粹主義者共は、その劍劇的興味を振かざして、この反動的傾向に加擔し、濁酒一杯の陶醉を味はんとしつゝある。かゝる社會的惡傾向は、資本主義末期一連の末輩たる、モダンガール、モダンボーイの類と何等變りはない。江戸の末期に於て、なほも江戸の情緒に追ひすがらんとする御家人共の江戸ッ子氣分と同じ類のものである。かゝる反動的焦燥は、將に一連の連鎖を以て、新興勢力に嚙みつかんとする傾向を具へつゝある。この狂犬共の連鎖こそ實にファシズムへの傾向である。この資本主義に連なる、これ等の反動的諸傾向は、資本主義の沒落と軌を同じうして、益々その貧弱なる暴威を狂はすであらう。

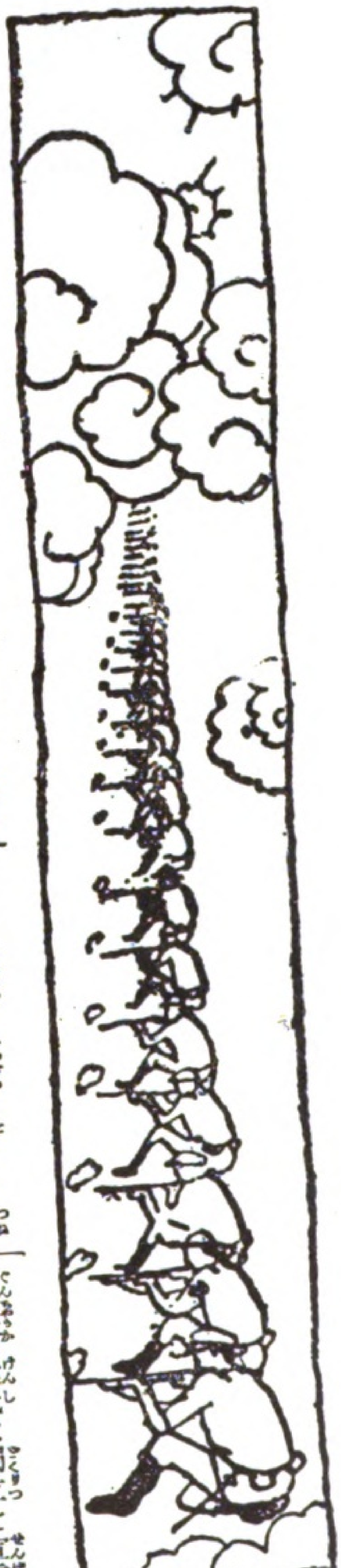
我が無産階級の確固たる戰陣は、うるさきこれ等の徒を、たゞ一擊の下に打倒して邁進しなければならぬ。そのために、××××、××××、また確固たる理論もある、隨つて、我々にはそれを眞實に活用し得べき無産階級的信念が必要である。それは、この地上に堅固なる地盤を有し、その中にしつかりと根を下したる大木である。××××、××××、而しそれは單なる×××の××であつてはならぬ。眞實に我等無産階級社會の創造者たり得るものでなければならぬ。

昭和二年も終り、將に新らしき年月を迎へんとする歳末にあたつて、我等は、我が無産階級陣營の愈々堅實なる步調を喜ぶと共に、また我等の決心を新にして突進しなければならぬことを痛感する。（佐藤）

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

同人時評

唐生智の沒落と武漢政府の崩壞？



赤露の支那に於ける國民革命運動の指導方針は國民的獨立、即ち國際的不平等待遇排除に在つた。而して其の實行を理論的闘爭に依らざる直接行動に訴へしめやうとして、國際的紛糾を激發せしめ外人の虐殺も辭すべからずと訓令した。此の過激主義を奉ずるものに武漢政府があり、是れを支持し背景とするものに軍閥唐生智があつた。然るに此の過激主義は支那内部に於いて多くの反對者が現れ結局失敗に歸した。換言すれば武漢政府の内治外交共に其の政策は支那民衆の排擊する所となつた。因つて勞農露國は最近其の對支方針を變更し、穩健政策を採るべくモスコーから武漢政府に訓令した。此の事は別の機會に於いて詳述する心算である。）此のボロジン一派の極端なる破壞的過激主義に反對する支那革命分子中の右派も、赤露そのものに對しては仍ほ友交的親善關係を持續し行く意志を棄てなかつた此の時早く赤露が其の對支態度を改めたことは、所謂新興勢力との緣を全般的に繫がんとするものである。而して蔣介石を打倒せよと命じ、遂に南京政府に征矢を放つに至つた。玆に於てか長江の上下に於いて武漢對南京軍の火蓋は切られ、謂ふ所の共産主義派と正統國民黨派は到々砲火の間に見ゆることゝなつた。

此の武漢對南京軍の戰局は最近にはかに急轉し、武漢派の主將唐生智軍は今や危機に瀕し南方時局の推移は頗る注目されて居る。即ち南京派に屬する陳調元、程潛、李宗仁の聯軍約八万は武穴から武漢方面に集中し、唐生智軍の旗色が著るしく惡くなつて來た折柄、形勢を觀傍して居た唐生智派に屬する何健軍は十一日突如として、反唐の意志を表明すると共に、家族を安全地帶に移し、軍を武漢に進めることに決し爰に唐軍は全く四面楚歌の重圍に陷つた。一方唐生智は部下の將卒に對し激勵する所あつたが、全然戰意なく剩つさへ逃亡する者續出する有樣に、遂に止むなく十日夜に至つて親近者に下野の意ある旨を漏らすに至つた。按ずるに唐生智の沒落も最早旬日を出でざるべく、今日に於いては、唯だ時期の問題とのみなつた。之れが爲め同地方の人心は早くも爭亂を恐れて極度の不安に襲はれて居ると云ふことである。何時もながら軍閥の徒が名利私利の爲めに徒らに兵火を交へ、無辜の民をして戰禍に哭かしむるは軍閥の新舊を問はず常にその軌を一つにし共に慨嘆すべき限りである。

然しながら一部の觀測では唐生智の沒落は却つて武漢南京兩政府の合同を促進するものとなしてゐる。而して他方漢口附近にあつた、共産黨の殘黨及び不良分子の暗中飛躍が著るしく、掠奪の形勢さへ見るので事態は益々重大となつて來た樣である。此の時局に對し日英米佛伊諸列强は居留民保護並に租界警備に關する手配を名として漢口に向けそれ〴〵軍艦を集中した。一方唐生智軍の大部隊は續々長沙方面に向つて移送されて居るが、其の目的は最近突然貴州軍の手中に歸した長沙を奪回する爲めであると稱して居る樣であるが、實際は武漢に於ける唐生智の位置が益々不利となつた爲め愈々武漢を脫出する前提であるらしい。此の前後に於いて武漢派第三十五軍長何健氏は獨立を宣言し、唐生智旗下の劉興氏と共に唐生智の下野を通電するに至つた。即ち一消息に依れば唐生智は十二日朝四時三十分幕僚と共に漢口より姿を消し、次で總司令部は掠奪されたと云ふ事である。之れが爲め同日午後に至り武漢軍は戰はずして南京軍に降つた。唐生智去つた後は何健が一切を引受けて漢陽を死守する事になつてゐるさうだが、而し結局は南京軍と妥協するに至るであらう支那に於ける新舊軍閥の離合集散は恰も秋の稻穗に群がりたかつた雀の子みた樣なもので、此の戰局もやがては妥協から妥協と幾多の和戰を反覆繼續して行くことであらう。

現在の支那には北京南京武漢の三つに三つの國都がある許りでなく、何れの中央政府(?)からも何等の指揮命令を受けぬ馮玉祥治下の河南陝西甘肅の三省と、四川雲南貴州の三省とがある。現在の支那

は眞に群雄割據の戰國春秋時代を目前に見るやうなものだ。唯だ政府も孫文の提唱した不平等條約取消だけは一樣に聲高く主張してゐる。廣東の李濟深が蔣介石に反抗し之れが因果を爲して蔣介石は南京政府を逐はれた。武漢政府管下の軍隊も唐生智派と反唐生智派とに別れて久しく暗鬪を續けてゐたが、今回到々前記の如く旗鼓堂々の裡に戰旗を翻へすに至つて、武漢政府の實力を把握してゐた唐生智は遂に其の本據を逐はれた。北方軍閥も今でこそ張作霖の傘下に表面は一致してゐる樣であるが（山西戰は別だ）新興の爭ひ、地盤の狙ひ合ひで絶えず暗鬪が演ぜられてゐる。此の暗鬪に點火すれば何時でも暗鬪は明鬪に轉化する。南北共に寢返りの禍根は到る所に潜伏して居る。主義も先輩も恩人もあつたものではない。

遮莫、曩に南京政府の蔣介石失脚して南京政府の力弱まり、今又武漢政府の唐生智沒落せんとして武漢政府の實力失はれ、實力無き此の二つの政府は此れから抱合心中を企て樣としてゐる。唐生智沒落――武漢政府崩壞――北京より外に行き場所の無い張作霖の都落ちする日は、寧漢の鬪爭、南北妥協交涉等に依り徒らに延張されつゝあるが……但し是れが張作霖將來の運命にとつて一層悲慘なる因でないとは果して誰か斷言し得やう。果敢にして目覺めたる支那革命大衆の奮起を希んでやまぬ所以である。（一二、一二日稿――日常生）

「統一戰線」をめぐる

山川黨の策動

口も八丁、手も八丁といふ才子揃ひの山川均氏及びその一黨は、風雲を呼び得ずしてながい間、地中にうらみをのんでゐたが、若き猪武者北浦千太郎君の劍劇振りにその端を發して、漸やく一方の血路を發見するに至つた。と同時に、この功績の中には深慮にして且つ頭腦の明晰なる陰謀家、田所輝明君のあることを忘れてはいけない。

その血路は、雜誌『大衆』十月號に載せられた、一九二七年八月十九日、ブハリンの主宰する『プラウダ』紙より譯出された、日本の『統一戰線』に對するコミンテルン執行委員會幹部の見解に基くものである。

老ひたりと謂へども、なほ自ら策士を以て自信する山川均氏は、この形勢に順應すべく自らの門下田所君のひそむ日本勞農黨と大山郁夫氏の統帥する勞働農民黨との、無條件合同を計畫してそれを發表し併せて勞農黨內部にひそむ『大衆』派の勢力に結ばんとした。元來『大衆』派には荒畑寒村あり、堺利彥あり、なほ青野季吉、浦田武雄ありて、從來の朋黨的或は主義的立場より、無論一致の行動を共にし得る者の勢力範圍である。これと結ぶことは、最も容易であり、また日勞黨と勞農黨との無條件合同をなさしむることは、一方日勞黨の雜然たる分子を排擊整理し得ると共に、一方合同されたる黨內に動かすべからざる位置を占め得ることになる。この形勢の操縱は多年の政策家たる山川氏の最も得意とする點である。

而し、この政策は一面に於て非常な行惱みがある。それは、この提案が全然兩無產黨の主觀的立場の埒外にある純客觀主義の立場からの煽動であつて日勞黨の自發的提案でないばかりか、日勞黨自身に於ても、これに直に贊成し得るか、どうか、疑問なものである。なぜならば、日勞黨內部には、山川氏一黨の指導精神又は野心と相違するものがあつて、却てこの相違する立場が日勞黨建設當初の又は本來の位置を占めてゐるからである。そして、この指導精神は、一方は革命的主義なるに反して、稍改良的空氣さへ漂ふてゐる。この、日勞黨內部の二つの流れが、如何に合流し得るかは、疑問ある將來の問題に屬するが、今のところでは恐らく不可能であらう、隨つて、山川均氏の客觀的提案たる兩無產黨の無條件合同なるものも日勞黨に於てなほ贊成し能はざるものではあるまいか、一方勞農黨は、既に見榮を切つてその反對論を掲げ、山川氏の無條件合同論を駁撃しつゝある。

この機會に於て、豫定のプログラムを廢棄すべし、といふ一下の掲載もろともに『大衆』十月號は、五月のコミンテルン執行委員會幹部の見解に基く『プラウダ』紙の譯文を掲載した。その一部分は次の如くである。

それは特に××××は大衆から分離し、しかもその首腦として多數のインテリゲンチャをもつてゐることは危險である。この斜面の主な罪過は、黨の分派的教理を說くのにある。即ち、黨は『マルクス思想』同人の『實現』であるといふ教理を『統一か分離か』の理論（この理論によれば、[illegible]必要だ）[illegible]情勢を克服せねばならぬ。

衆に近づけ……これこそは大なる歴史を有する日本の×××に對する苦言である』

次いで『日本勞農新聞』第二十二號(十一月十日發行)は更にこれに粉色したる同じ譯文を掲げて、福本和夫氏の指導下にある勞農黨、組合評議會の惡口をたゝき初めた。

この問題は主として、日本無産階級運動の統一戰線(實は××××黨の結成)に對する相違の爭點であつて山川派の『白鳥の卵をしのばせ置く』政策と、福本派の『統一の前の分離』政策との、いづれが正しいか、に就いての問題である。然るにこの問題は、××××の諸歴々に依つて、はからずもコミンテルン執行委員會幹部の決定內容の發表と共に、益々大きな波紋を描き出された。

山川均氏にとつては、このコミンテルン執行委員會幹部の決定こそ、天にも地にも、たつた一粒の得難き惠みの露であつて、この機會に於て白鳥は卵の殼を破つて飛出さなければならないものである。そして日勞黨と勞農黨との合同の中に確固たる自己の地盤を作らなければならないものである。

この夢が、正夢となるか、空夢となるかは、一に山川氏、をめぐる若き才子諸君の奮闘によるであらうが、特に日勞黨內部に苦行をつゞけつゝある田所君の双肩に負はされた重務であらう。また一方『大衆』社同人との堅き握手と、『大衆』社同人の勞農黨內部に於いて福本派との積極的對立と、更に精鋭なる戰術の放射に依る闘爭の展開とに與るところ多いであらう。

この傍觀者(山川氏一派)の政策に對して、主觀的當事者たる勞農黨、日黨黨は、更に如何なる展開をなすであらうか、兩黨の多難なる道行きは更に益々多難を加へるであらう。(一一、一一佐藤護郎)

『朝鮮共産黨』公判とその拷問事件

二ケ月前より朝鮮京城に於て公判が開始されてゐる所謂『朝鮮共産黨事件』は、公判それ自體に就て數多の問題を惹起し、遲々として運ばれず最近に至つては、奇怪な拷問事件が暴露して所擔辯護士團が鐘路警察署を相手取り拷問事件の告訴までを提起するに至つた。

今回の朝鮮共産黨事件といふのは、朝鮮に於ける社會運動者として知られてゐる戰鬪的前衛分子百有餘名の被告を全鮮各地に亘つて一網打盡的に檢擧し、三年有餘の長い間之を暗い鐵窓の中に置き凌虐と、迫害を加へつゝ豫審といふ名の下に暗に葬つて來たのであるが、開廷劈頭から官憲の横暴、嚴重警戒、公開禁止の法外の彈壓と、沒人情な裁判所當局の事件に對する無理解に依り、いまや朝鮮民衆は紛糾に紛糾を重ね全鮮的に之が反對運動を起しつゝある。まるで大正八年××××××を再現せしめた感がある。之は被壓迫民衆の反抗をあらゆる×××××鎭壓してゐる專制的彈壓政策が原因となり惹起された處の朝鮮二千万被壓迫民族の反抗運動であり自由の叫びである。朝鮮共産黨事件及びそれに依る民族的反抗運動は××××が如何なる殘忍さと狂暴さとを以て血みどろの××を加へてゐるかを如實に表明する、その客觀的證明である。

彼等は朝鮮を完全なる日本金融資本の植民地として、その勞働者、農民の膏血を搾取すると共に、社會主義ソヴェート共和國聯邦の確立と、支那國民革命の進展により危機に瀕しつゝある滿蒙の武力的政治支配を確保せんとする××××××の斷末魔的焦燥に外ならないのであり、從つて暴虐なる×××××××は全朝鮮民族から一切の民族的、言論、出版、集會を奪つてゐる。一切の集合は、警官と、憲兵の泥靴に蹂躙られ、一切の新聞雜誌は不法沒收を蒙り、そして民族解放のために戰つた幾千幾万の志士はその生命を危くされつゝある。

今回の所謂『共産黨事件』なるものは、斯る不當壓迫の反影であり、彼等の暴壓政治の客觀的暴露でもある。

斯の如くして突發した事件の公判は、更に彈壓に〳〵を加へ、まるで朝鮮全土は戒嚴令の下に置かれ、暴壓政治の反對、暗黑公判の反對運動は刻々全鮮的に擴がつてゐる。

更に問題は進轉して百有餘名に亘る共産黨事件の調書及びその豫審の內容が悉く無實でめり凌虐的暴力による拷問である事實を以て被告は辯護士團に依賴してこの奇怪、惡辣なる事件の告訴を提起するに至つたのである。我等は次きにその不當なる拷問事件の告訴理由を附記して賢明なる讀者の批判に總督政治の眞相を訴へんとするものである。

(N K 生)

告訴の理由

告訴人等に對する治安維持法違反及被告事件は目下京城地方法院公判に繫屬して公判進行中なるも素より未だ既決の確定囚に有らず從て告訴人等を治安維持法違反事件被疑者として其の取調べを爲す被告訴人等は告訴人等に對して刑事訴訟法第二百四十八條に依る司法警察官として其の職務を行ふ際同法第百二十五條被告人に對しては叮嚀親切を旨とし其〃利益となるべき事實を陳述する機會を與ふべし。の規定に明かなる如く苟も告訴人等に對し粗暴不親切の態度を戒愼すべき職務上の義務を有す然るに被告人等は前項の如く告訴人等に對し嫌疑事件迅問に對し其眞實(全然身に覺へなき眞相)を答辯して、之を否定するや不法不當にもその訊問事實肯定の答辯を強要する爲め前記の如き告訴人等に暴行凌虐を加へたる被告訴人の行爲は告訴人等の憲法に保護せられたる人格を蹂躙し刑事訴訟法に保護せられたる被疑者の辯護權を無視し更に司法裁判の公平眞實を誤らしむる法律破壞にして法律上人道上斷じて許すべからざる重大犯罪なりと確し玆に本告訴を提起する次第なり。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

勞働農民黨の態度
その他

◆

近頃吾々の間で最も八釜しく論じられてゐるものは無産階級內勢力の統一に關する問題である。昨年來日本の社會運動の上に一大セセッションを捲き起した福本主義が、即ち「統一の前の分離」の主張が、日本の運動のわざわひであると云ふ事がコミンテルンの見解として發表されるや、かねて福本主義の爲めに追放された山川派の勢力頓に伸張して來た事は何人の目にもあざやかなところである。

しかしながら最近私達の目を驚かすものは、由來福本主義の本城であり勇猛果敢に理論的對立より政治的、組織的戰術的に進んで來て、あくまで分裂主義を奉じそれが無産階級の統一の爲めの必然の道であることを主張してゐた勞働農民黨の態度の、にはかにその分裂主義を捨てゝいちじるしく合同的態度に出でた事である。勿論、それが「無條件合同論」に屈服したものとしては裝はないけれども、この傾向は早うたがふべからざるものである。

無産者新聞の十一月十五日號は「すべての勞農政黨合同協議會を提唱す」と稱する社說を掲げて、過去における他黨の幹部排斥を條件とするそれとは、全然異つた主張を掲げてゐる。例へば「この協議會は（勞農政黨合同協議會）は單に幹部だけの諒解ではなく、單に無産政黨が無條件に融合せんが爲めではなく、共通の政治的日常鬪爭の爲めに、そしてそのためにのみ合同を實現することを全力をつくして討議協定するものである。單なる諒解の爲めの協議會が勞農黨の鬪爭力に何の役にも立たないことは、いやと云ふ程大衆の經驗し來つたところである」と云つてゐる如く、先づ各黨の幹部の諒解を前提としてゐる。この主張はまぎれなく、勞農黨が從來の徹底的對立鬪爭の主張を變化させたものである事はうたがふべくもない。

勞農黨は自らの非なるを感じたのか、それとも或る力に恐れたのか。前者ならば甚だ愛すべしとするも、後者なれば卑怯者の名を贈くるに敢て吝さかなるものではない。

◆

最近生活難による犯罪者の激增に就いて、警視廳は大々的に取締方法を講じて事を未前に防ぐと云つてゐる。しかしながら、如何に警視廳が馬力をかけても、原因即ち生活難そのものゝ救濟方法を講じなかつたら、決して豫期の效果をあげる事は出來ないであらう。現在の支配階級にとつては、この分り切つた事柄をやつて行かうとする誠意もなければ、亦、これを切拔けて行くだけの能力もないのである。昭和二年度も暮れようとするのであるが支配階級は、あのおびたゞしい失業者を其まゝ放任し、亦今秋の銀行の動搖のとばしりを喰つた無辜の小口預金者には一文の金すら與へ様とはしないのである。その結果、小資商人の不況となつて現はれ、或は働かせろ喰はせろと叫んで數多の失業者が市長のところへおしかけて行くのである。犯罪者の激增も、原因のすべてが支配階級の無能力に歸するものである。自殺も、發狂もみなそれである。

小數の金持の爲めには、臨時議會を開いてまで協議し、共濟方法を講ずるけれども無産階級の喰ふか喰へないかの問題は、支配階級の注意の彼方にあるものゝごとくである。しかしながら、吾々がこれをよく考へて見るならば、吾々無産階級の問題は支配階級の解決する問題ではないのだ。それは、彼等の犧牲を當然の事とせざる以上望み得べくもないからである。

◆

それは、それとして、政友會內閣の一枚看板であつた地租委讓や自作農制定案が、政友會の力によつてすらもてあまされてゐる觀があるのは、それ見た事かと私達をして手を打たせるに充分である。資本主義機構の上に立てられた財政の破綻が彼等の思ひつきを、どつこいと喰ひ止め、亦その案自身の反動性、非時代性が、その實現の不可能を立證せんとしてゐる。彼等は口々に地租委讓は一年延期するのだの、或は、自作農創定案は調査會をもつて成案を練るのだと噓でかためた八百を云つてゐるけれども、彼等は內心手も足も出ないのである。

元來、政友會の否あらゆる支配階級黨派の農民政策は、戰鬪的農民組合のたゝきつぶしを目的としてゐる。さればこそ、彼等が猫なで聲を使つて、お前はこうこうすれば自作農にしてやるとおだてあげる。小作法の如きの制定を知らぬ顔をして一意專心自作農政策をもつて進み、農民獲得の野望を遂行しようと企でゝゐる。しかしながら、每年、沒落しつゝある自作農をどうしようとするのか。この自作農制定の非時代性はこの事實が最も雄辯にものがたるものである。されば、支配階級の自作農創立案は欺瞞に過ぎない。これを切拔けるのが農民の使命であり、農民を獲得し共働せしめる事なくしてその歷史的使命を果し得ないプロレタリヤの使命でもある。

（K 生）

解放新聞 一部十錢
四六四倍版十六頁
大阪市東淀川區十三西ノ町
一三一 解放新聞社

自助會大會と左翼の戰術

長尾桃郎

大正十三年大阪市電大爭議直後、市當局が動揺の坩堝の中にある從業員を收攬すべく、一つの目標として作られた研究團體自助會が、同爭議の主體西部交通勞働同盟の二つの分身、總同盟大阪市電從業員組合、並に大阪交通勞働組合の兩者から時には挾撃され、時には鞭撻されて、漸く「研究團體」の殼を蟬脫して、組合化したのが、大正十四年末。

只數學的價値のために、外界から必しも無視されなかつたものの、若冠の故に且つその母體の故に、「集つたもの」としてではなく、「集められたもの」としての概念から評價されてゐたことは、寧ろ當の自助會のために幸し、總評二大團體の分裂の餘波、乃至は無產政黨問題の混亂の渦中にも卷きこまれることなくして過ぎ、「內充」の一本槍で進むことが出來た。

だが昨年後期以來、交通總聯盟の主體東京市電從業員自治會の左翼化と共に、著しくその影響を被り、更に同じ大阪市電氣局內に評議會所屬大阪電氣勞働組合の存在することによつて、尠からず左翼的進出に助勢されるに到り、遂に左翼の一伍に列しやうとするに當つて、自助會は自ら內に破綻をかもし、そして行詰つて了つた。その行詰りを淸算し、打開し、轉回すべく企てられたのが、卽ち自助會第五回大會であつた同大會は唯それだけでも、十分の意義を有するものであつたに拘らず、新聞宣傳（利用）が宜しきを得なかつたためか、全く關西の新聞界から默殺されて了つた。筆者が同大會を今玆に拉し來たのも、全くそのためであつて、決して自助會の左翼的進出の可否を問はうとするためではない。

一　自助會行詰りの徑路

大正十五年六月、自助會はその統一に成功した。從來、或は抗爭し、或は支持を受け來た上記西部交通勞働同盟の二つの分身組合が、ともかく自助會に融合合併し、以て自助會は日本交通總聯盟の一支柱となつたのであつた。しかし當時の統一は單に混合であつて、決して化合ではなかつた。依然として外部二組合の指導精神が執拗に自助會に寄生し、自助會としての統一した方針の所產を鈍らせてゐた。今次の自助會第五回大會席上に於て、一本部員が「本日の內紛の禍根は自助會創立當初以來のものである。」と叫んだのも十分首肯されるところである。

だが本年劈頭に於て、舊大阪市電從業員組合の指導者であつた一常任書記が辭任したことは、自助會にとつて一つの禍根を除き得たことであり、されば、こそ自助會の、少くとも自助會本部の好める左翼的進出を惠むものと考へられたのであつた。それにも拘らず、自助會がその進出への首途に當り、自ら會計私消問題を曝露せしめられたことは、確にその進出に對し、致命的な打擊を與へたものであり、本年度を通じて自助會が被つた種々なる苦慘と、多難とは、全くその一事に還元し得るものであつた。卽ち――

（一）本部員から非乘務の特典剝奪。

（二）左翼系幹部の解雇。（前後二回）

（三）市電共濟組合評議員の兼職不許可の通達。

（四）御用系の蠢動による會費不納同盟の擴大。

等で、その何れもが、兼てから自助會の左翼化を牽制し、或は痛打すべく、耽々としてその機會をねらつてゐた當局によつて、自助會々計紊亂問題に藉口して、自助會の虛を衝くべく用ひられたものであり、而もその攻擊政策の個々は、何れも當局の思ふ壺に嵌まつた概がある。

右の當局の積極的攻勢から生れた政策を解剖すれば――

（一）――凡そ交通勞働者の如く、勤務時間の不同なる勞働者にあつては、その組合の主腦部は非乘務でない限り、同一時間に、同一場所に、その全部が集合し、以て對策を協議し得る機會は極めて稀である。といふよりも、事實上、全員集會による協議は不可能に近い。この點を知悉する當局は、本部員から非乘務の特典を剝奪して、以て自助會の策源地を先づ破壞した。

（二）――今春に於ける二左翼系幹部の馘首は、正しく上記會計問題の卷へ添へであつた。又今夏に於ける一左翼幹部の解雇は、對支非干涉運動に干與した一事を捉へて理由としたものであつたが、共に不當なる解雇であり、意識的なる當局の彈壓であつた。漸くにして組合としての體型を備へつゝあつた自助會にとつて、この「出抗痛打」主義による彈壓は、意識への途上にある爾餘の幹部の腰を折ると餘りに見事なる結果となつた。

（三）――當局は自助會本部員の非乘務を奪つた。だが、共濟組合評議員（その多くは局外各組合の精銳分子である）が、尙非乘務の特典を保有してゐるがために、當局は組合側がこの評議員をして組合幹部たらしめ、

以て組合事務を兼攝せしめるだらうとの肚裏を洞察し、自助會をしてその事なからしめるため、機先しての計畫であつた。

この問題は單に自助會のみならず、全局内各勞働組合にも直接關係を有してゐたが故に、一時は大阪市電從業員代表者會議の再興起となり、所謂「市民權剝奪問題」の咆哮とはなつたもの、該代表者會議はその首途から歩調の不一致を曝露したがために、唯單に當局をして非公式一釋明書を發表せしめたのみで、却て當局をノホホンと收まり返らしめてしまつた。尤も自助會に關する限りでは、自助會第四回大會(四月)が、眞向からこの通達を蹂躙して、評議員即ち自助會本部員たらしめるの策を可決し、以て評議員總改選(六月)に臨んだ。とはいへ、當局の「出杭痛打」政策が、既に一般意識者の闘爭神經を相當碎いてゐたあげくだつたがために、當選率に於ては豫期の成績を收めながら、新幹部は當選の瞬間から冬眠期に停足したかの嫌があつて、實踐上に到つては、甚だ面白からぬものが多かつた。

(四)――自助會牽制のための、當局の搦手政策である、自助會會員中の御用系分子を傀儡とし、而も各支部に散在する修養團の一派と氣脈を通ぜしめて、自助會が左翼的進出の濃度に應じて、巧に會費不納同盟を緩急し、以て自助會の臺所を脅さうとしたもので、是亦尠からず效果を擧げた。

かくの如く自助會幹部が、その信奉する左翼的政策の遂行によつて、自助會大衆を指導しやうとする企ては、大手搦手からなる當局の、攻撃の重圍の中に陷らねばならなかつた。殊に上記(一)と(三)との存在は、勢ひ自助會の政策、乃至運動を、非現業員(爭議の魁首者)幹部に委ねねばならぬ多くの事情を生じた。茲に非現業員幹部の左翼的猛進が始まり、その結果遂に幹部と大衆との遊離狀態を醸すに到つて、自助會は全く行詰つた。

この混沌期に乘じ、御用紙の總帥本城天王寺支部に據つて、その亞流者たる極右現實論者と提携し、旗鼓を鳴らして、左翼派追放政策を考案したのであつた。この追放政策は當局の影であることは言ふまでもない。この左翼驅逐政策は、去る九月、先づ左翼不信認を意味する本部會計不正問題の流言を先驅として現れた。しかし會計不正の蜚語は、自助會本部がその金庫を會計審査員に解放することによつて、全く粉碎され、結局失敗に終つた。とはいひ條、大衆に動搖を與へる楔隙として若干の效用をなした。その間隙に乘じて、御用派は愈々その正體を露し、十月十七日自助會本部に左の要求を提示するに到つた。

一、現本部員の總辭任。
二、現本部常任書記の總辭任(非現業員)
三、贊助員の除籍。(大爭議の魁首者)
四、交通總聯盟に對する會費不納。(消極的脫退)
五、會費の値下げ。
六、自助會基本金の返還。

等々〳〵。その主張の基調は左翼排除と共に、外部團體との交渉を斷ち、自助會を現業員のみの自助會たらしめんとする一種の極右的モンロー主義であつた。この要求に對し、本部が一蹴を以て酬ひたことは勿論である。

この動搖を利用し、以て自助會今次の大紛亂の導火線を切つたものは、實に、永く自助會本部内に蟄居してゐたアナ系の一派であつた。この派は「南海電鐵爭議」に對する本部の「無活動」「歎願書」問題に對する自助會の無力「京阪電鐵爭議應援に對する不徹底」等等卑近なる、而も本部の急所を衝く問題を捉へて、自助會本部攻撃の材料に用ひ、自助會再建設の前提として「自助會解散」を絶叫すると等しく「量より質」の標語の下に自助會蠶蝕運動の烽火をあげた。同派のねらひどころは、過去一ヶ年の自助會が、所謂全大衆の全線的運動への展開に陶醉して、却て自助會の大衆と遊離した嫌のある本部の遠大政策に對し、卑近なる、そして直接會員に關係ある問題に據つて、會員の核心にふれつゝ、又以て「上より下へ」の左翼の中央集權的政策に對抗して、「下より上へ」の會員の自由發意に基礎を置く新組合組織を提唱せんとするにあつた。

かくして自助會は創立以來未曾有の混亂に逢着した。自助會第五回大會は、この混亂を如何に收拾し、如何に轉回せしめるかの使命を帶びて開かれたのであつた。

(二) 自助會大會に於ける左翼

同大會は十一月二日大阪港區九條會館で開かれた。同大會に對し、御用派はその立場上意識的に怠業を敢てした。從つて始めから大會は、ボル對アナの示威場裡であつた。本部派を支持する外部の左翼團體、並に自助會解散協議會に左擔する自由聯合系は、共に集團をなして傍聽席を埋め、而して議案第三「天王寺支部及び自助會改革同志會(御用派ノ二)並に解散協議會對策の件の上提、及びその歸趨に就いて、それ〳〵の立場から應援と監視を怠らぬ―といふ緊張裡に開會の辭は述べられた。開會は定刻を遲れること實に二時間半、午後七時三十分前後であつた。

この開會遲延は、前夜に開かるべき筈の會計審査委員會が不能に陷つたがため、時間の都合上として、大會直前に行はれたのである。が、既にこの一事は、當大會に臨むに際しての左翼(自助會本部)の

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

政策の一であつたと見て差支あるまい。

流言に祟られ、且つは今春の會計私消問題に禍ひされて得てして疑惑の暗影を伴つてゐた會計の審査に就ては、他の團體大會に於けるそれの如く、大會進行中別室にて行ひ得る程、斯かく單純に濟し難く、全本部員立會の上で詳細なる說明を與へる必要のあつたのは事實であらう。だが今一つには、大會議案討議の時間短縮、乃至は審査のために、若干時、若干人たりとも本部員が、大會席上から、所謂別室に退かざるを得ない場合を避けるがための一方策だつたと見るのは僻目だらうか。

當夜の中心議題たる上記第三案が上提さるるや、同大會が正規の規則に基かず、否基けずして開かれた特異性——（代議員中天王寺支部は全缺、他支部に於ても缺席代議員數夥からずして、規定の頭數に充つや否やの點を全く度外視して開かれた點）を是認した以上、更にその特異性を延長して、一般會員傍聽者にも發言を許可すべしとする動議が成立した。是は實に同大會を通じて統一一貫した政策、即ち「アナ系默殺」の前提をなしたものであつた。

蓋し同大會が本部派の指導の下に、否仕組まれた筋書の下に、豫定の結果を當然齎し得るとの期待は、本部派にとつて十分あつたにもせよ、出席代議員の比較的少數なる點に對する懸念もあつてか、一般傍聽會員に對する發言許可によつて、大會に景氣を副へ、一層に意氣を揚げやうとする裏に於て、後日のために、一般會員傍聽者中に於ける多數なる本部派支持者存在の確證を得んがため、乃至はこの支持者の應援の下に、更に激しく壓倒的にアナ系の活動を封じんがための計畫だつたとも見得られる。

何故なら、この發言許可によつて、本部擁護派から多數の禮讃辭の出現を豫想し得ると同時に、又本部を痛擊せんとするアナ系讚美者の擡頭をも、當然に豫期せねばならなかつた。素より前者の數が、後者をはるかに凌いでゐることは、た易く洞察され得たところである。だが、力量所有者一人の存在は、時に、優に多數雷同派の擧手を逆轉せしめる可能性、或は危險性が潛む。そこに本部派の懸念があつた。さればこそ、次の動議が即刻採用されたのであつた即ち「本大會は自助會を如何に導くかの會合であつて、いかに破壞し、解放せんとするかの催しでない。」と。

本部派はアナ系の銘名した『自助會解散協議會』の「解散」の二文字を逆用し、敵の武器で敵を擊つの巧妙なる策を用ひた。更に押かぶせて「アナ系巨頭退場强要說」さへ出た猛烈なるアナ系傍聽者の野次のコーラスの中に於て。

之等の意見、動議に對する當夜の議長の態度は、餘りに收果的であつた。意識的だつたにもせよ、それを極めて自然なるものとして消化し盡してゐた議長の、得てして非難潔的な口吻は、それと明かに洞察されるところのアナ系一般傍聽會員の發言要求に對し、最もよく本領を發揮した。問題の一點にこげつくのを避けつゝ、而も問題の中心を離隔せざる程度に於て、斷えず問題の周圍を循環して縷々と說明に浸つた。そしてアナ系發言要求者を焦立たすと共に、問題に對する熱心を散慢にするに役立たしめ、斯かして遂に最後まで發言を遮り了した。例へば、「アナ系退場强要說」に對して、アナ系傍聽者蕩掃の可能性薄きを理由として、その採用に當つて不即不離の態度を見せる一方、同派の經濟鬪爭上に於ける行動の勇敢性、意識の高揚性を賞揚しつゝ、『しかしながら自助會を解散せしめんとするに到つては……』と、字義のみを議場にキスパイアーして、あくまで自派に有利なる展開に、解散協議會を利用した等々。

そのあげく「解散協議會」は「沙汰の限り」であり、「齒牙に懸けるの要なし」との口實の下に、第三議案から同派に關する對策のみを除外してしまつた。茲に「中央幹部の仕組んだ筋書は大差なく實演され」て、アナ系默殺の目的を完了した幹部は、渾身の痛快の味到に雀躍した筈である。

だが「齒牙に懸ける要なし」の一語は、當夜の、而して現在の本部派にとつて、アナ系對策討議回避のための遁辭であり、且つアナ系默殺計畫のための口實であつた事は事實であらう。現に「一般傍聽會員の發言許可」の動議が出た際、之を「一般傍聽」と誤解した一幹部が、この動議を以て「發言許可は本大會を根底的に破壞し盡するものである」と絶叫した一事は、明かにアナ系の存在を「齒牙に懸け」てゐた反證を自ら告白したものであらねばならぬ。

尙御用派に對しては「次大會までに可及的に宣傳勸誘を試み、一部當局の使嗾者の手から會員大衆を奪還して、大自助會結成のために努力することを可決し、同時に「齒牙に懸けざる」の故を以て、アナ系に對して、公式に絕緣狀發行理由の餘地を殘さずして午後十二時大會を終へた。

理論に潔癖であり、果敢を好む左翼として、この終末は甚だ洗練された戰術であつた。

大會のこの終局を以て、自助會本部に御用系を除名する實力と、勇氣との欠如によるものとする觀察も行はれてゐる。——素より意識的に當局のお先棒をかつぐ分子は極少數であらねばならぬ。然しまた完全なる自覺の下に、左翼指導精神を信奉する者、亦必ずしも多數とは言はれまい。だからあの際、本部派が左右兩翼に截然と分離すべく、御用系一派を除名することは、單に天王寺支部及びその亞流者一系を除去するに止まらず

十一頁三段に續く

朝鮮共產黨事件被告の拷問警官に對する告訴

布施辰治

る官憲横暴の限りを盡して居る朝鮮に於て、刑務所に居る被告から、その被告を刑務所にたゝき込むだ司法警察官を相手取つて暴行凌虐瀆職罪の告訴をした事は、朝鮮に於ける空前の出來事かも知れない。

が、しかし、法律は決して支配階級官憲が、被支配階級民衆を取締つたり彈壓したりする便宜の爲めのみに存在してゐるのみではない、支配階級官憲も被支配階級民衆も、法律の前には平等に正しき保護を受けるとともにその不正を處罰せられなければならないのである。

故に、支配階級官憲と云へども、法律違反の不正があらば當然其の制度に服さなければならない、否、寧ろ支配階級官憲の法律違反は被支配階級民衆の法律違反よりも情狀が重い事になつてゐる。此に朝鮮共產黨事件の被告人百〇一名に對する檢擧警察官の暴行凌虐問題に就て、斷然左の如き告訴狀を提出した。

告訴狀

西大門刑務所在監中
告訴人　權　五　窩
同所　同　姜　達　永
同所　同　金　政　琯
同所　同　洪　悳　裕
同所　同　李　準　泰

右告訴代理人
東京府下高田町雜司ケ谷八一五番地
辯護士　布施　辰治
東京市赤坂區仲ノ町五番地
辯護士　古屋　貞雄
京城府黃金町一丁目七十番地
辯護士　金　炳　魯
同府觀水洞百六十番地
辯護士　李　仁
同府樂園洞七十五番地
辯護士　金　泰　榮
同府淸進洞百六十七番地
辯護士　許　憲
同府仁寺洞
辯護士　韓　國　鐘

京城鐘路警察署在勤
被告訴人　三輪和三郎
同所　同　吉野　藤藏
同所　同　大森　秀雄
同所　同　金　晃　圭

告訴の趣旨

一、刑法第百九十五條暴行凌虐瀆職罪の告訴

一、被告訴人三輪和三郎は鐘路警察署詰警部

一、被告訴人吉野藤藏は鐘路警察署詰警部補

一、被告訴人大森秀雄は鐘路警察署詰警部補に在勤し刑事訴訟法第二百四十八條の司法警察官として告訴人等に對する治安維持法違反被疑事件捜査の職務を行ふに當り告訴人等に對し刑法第百九十五條に該當すべき暴行凌虐を爲したる犯罪行爲（犯罪事實參照）ありと確信し嚴正なる司法權活動の審理處罰を要求する爲め左に適確なる事實を具して本告訴を提起す

告訴の事實

告訴人等は何れも治安維持法違反事件の被疑者として檢擧せられ各其の取調を受くるに際し各被告訴人は告訴人に對し左記の如く（一）吉野藤藏は部下數名と共に告訴人權五窩を大正十五年六月十四日より同月二十五日に至る間鐘路警察署二階訊問室に於て前記被疑事件取調に際し同告訴人權五窩の兩手を麻繩を以て結縛し後頸部に釣り挾め小丸椅子を横倒しと爲し其の脚の鋭角の上に跪座せしめ竹刀を以て全身を亂打し又は亂暴にも靴足を以て蹴飛ばし横倒しと爲し告訴人の前齒（上齒）二本を傷つけ多量の出血を爲さしめ又は全身數ケ所に青黑色の斑點を呈する腫脹に至らしめたり。尙同被告訴人は告訴人の兩手首を麻繩を以て後頸部に釣り挾め結縛したる儘大腿部と小腿部との間に角棒を二本挿入し板間の上に角棒を横に置き其上に跪座せしめたるに飽き足らず前記後頸部に吊り上げられたる兩手首に丸椅子を吊り下げ置き睡眠を爲さんとせば監視中の他の刑事等をして竹刀を以て殴打し睡眠を爲さしめざる事三晝夜に及び其の結果告訴人をして人事不省に陷らしめたり其間頸部顔面等を拳又は平手等にて亂打し人間として忍び得ざる暴行凌虐を加へ被疑訊問事項の肯定的供述を強要したり（一）大正十五年七月十七日より同月二十九日まで繼續訊問の際被告訴人三輪和三郎同吉野藤藏は鐘路警察署二階訊問室に於て唐突に告訴人姜達永を裸體と爲し直に兩手を以て頰を亂打し足を以て蹴飛ばし麻繩を以て兩手を結縛し之を後頸部に釣縊めたる儘右椅子を横倒しと爲し角棒の鋭角の上に座跪せしめ同告訴人が苦痛に堪へずして身動きしたり更に「身體を動くな」と怒鳴り丸棒にて亂打し竟に昏

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

倒せしめ長い時間を經過し同告訴人を水道栓のある處に連行き長腰掛に全身を結縛し赤いゴム管を鼻口に嵌込め水道の水を注入せしめ又悶倒するに至らしめたる暴行凌虐を加へ被疑訊問事項の肯定的供述を强要したり

（三）大正十五年七月十九日午前十時頃鍾路署に逮捕せられ同署の二階訊問室に入るや被告訴人三輪和三郎同吉野藤藏同金晁圭、同大森秀雄等は順次入室に來たりて唐突に告訴人金政珀を裸體と爲し直に棒を以て亂打したる上麻縄を以て兩手を結縛し之れを後頭部に釣嵌めたるあと丸椅子を横倒しと爲し角棒鋭角の上に跪座せしめ被告訴人金晁圭はバケツに水を持ち來りて鼻口に之を注入し被告訴人吉野藤藏は竹刀を以て頬を亂打し其場に昏倒せしめ其の結果告訴人が午後四時頃漸く正氣付きたる時は鼻よりも出血し耳が遠くなり背部にも出血し居り尚其後十日程の訊問を受くる都度腰掛に全身を結縛の暴行凌虐を加へて被疑訊問事項の肯定的供述を强要したり

（四）大正十五年六月十五日より十七日まで三日間に亘り京畿道警察部訊問室に於て被告訴人吉野藤藏は告訴人洪悳裕に對し唐突に（共産黨の事を話せ）と迫られたるも同告訴人は眞に之を知らざるに依り『知らず』と答へたるに『嘘でも話せ』とて被告訴人金晁圭と共に亂暴にも麻縄を以て兩手を結縛し之を後頭部に釣り嵌めたる儘小丸椅子を横倒しとなし角脚の鋭角上に跪座せしめ前方より兩手を以て頬を無數に亂打し或は太き藤杖を以て後頭部及後頸部を亂打し百五回も昏倒するに至るまで暴行凌虐を加へて被疑訊問の肯定的供述を强要したり

（五）吉野藤藏並に大森秀雄は共に告訴人李準泰を大正十五年六月二十一日より同年八月十日迄の間鍾路警察署二階取調室に於て前記被疑事件の取調を爲すに際し告訴人の兩手を麻縄を以て結縛し後頭部に釣り嵌め加ふるに大腿部と小腿部との間に角棒一本を挿入したる儘板の間に角棒二本を横に置き其の上に跪座せしめ引續き數時間右の狀態に置き以て堪へ得ざる苦痛を與へたるに飽き足らず全身を亂打し腫脹せしめたり右被告訴人は告訴人を幅一尺長さ六尺位の腰掛に背を下にして臥床せしめ兩足部並に兩手を腰掛に結縛し一人は頭を押へ付け他の一人は二側の藥鑵に水を入れ置き交互に告訴人の鼻に右の水を注入し數回に亘り人事不省に陥らしめ一ケ年有餘を經過せる今日に至るも未だ全癒せず目下刑務所に於て治療を受けるが如き暴行を加へ（現在脊を下に爲しては睡眠せられぬ）人間として忍び得ざる凌虐を爲し以て被疑訊問事項の肯定的供述を强要したり

仍て刑法第百九十五條に該當する暴行凌虐の瀆職を犯したるもの也

告訴の理由

告訴人等に對する治安維持法違反被告事件は目下京城地方法院公判に繋屬して公判進行中なるも素より未だ既決の確定囚に非ず從つて告訴人等を治安維持法違反事件被疑者として其の取調を爲す被告訴人等は告訴人等に對して刑事訴訟法第二百四十八條に依る司法警察官として其の職務を行ふに付同法第百三十五條「被告人に對しては叮嚀親切を旨とし其の利益となるべき事實を陳述する機會を與ふべし」の規定に明かなるが如く苟くも告訴人等に對し粗暴不親切の態度を戒愼すべき職務上の義務を有す

然るに被告訴人等は前項所述の如く告訴人等に對し告訴人等が被告訴人等の嫌疑事實訊問に對し其の眞實（全然身に覺へなき眞相）を答辯して之を否定するや不法不當にも共の訊問事實肯定の答辯を強要する爲め前記の如き告訴人等に暴行凌虐を加へたる被告訴人等の行爲と告訴人等の憲法に保障せられたる人權を蹂躙し刑事訴訟法に保護せらるゝ被疑者の辯護權を無視し更に司法裁判の公平眞實を誤らしむる法律破壞にして法律上人道上斷じて許すべからざる重大犯罪なりと確信し玆に本告訴を提起する次第なり

告訴事實の立證

一、各告訴人等に對する各被告訴人の作成したる各被疑者訊問調書中供述者たる被疑者（告訴人）の嫌疑事實否定の任意供述を排して訊問者たる司法警察官（被告訴人）の訊問肯定的供述を强要したりと解せらるゝ調書の記載

二、告訴人洪悳裕姜達永李準泰等の公判廷に於ける訊問事實供述を錄取したる公判調書

三、權五卨姜達永李準泰各告訴人の刑務所内に於て手記したる辯護參考事件調査書中被告訴人等に拷問せられたる事實の記載

四、告訴代理人中金炳魯金泰榮古屋貞雄布施辰治等の聽取したる各告訴人の被拷問事實陳述を錄取したる陳述書

五、各告訴人と各被告訴人との對質

六、金政珀の拷問せられたる事實に付いては其の直後鍾路警察留置場に於て被害狀況を實見したる證人

西大門刑務所在監中　朴泰善

同　李鳳洙

同　李俊泰

同　劉德基

七、李準泰の拷問せられたる事實に付いては其の直後留置場に於て被害狀況を現認せる證人

京城府竹添町一丁目

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

（或は二百二十八番地）
李翔善
西大門刑務所在監中
金昌俊

等取調に付いての希望

一、本件告訴事實は常に檢事の部下として司法警察事務を司掌する司法警察官の犯罪なり故に其の取調は到底同僚司法警察官の能くする所で非ざるは勿論又平生其の部下として司法警察事務を指揮補助せしめ居る檢事としても情控上其の嚴正を期することは至難なりと思料せらる、就ては檢事正自ら直接本告訴事件關係者を取調らるゝことを希望す

昭和二年十月十六日
右告訴代理人
辯護士　布施辰治
古屋貞雄
金炳魯
許憲
李仁
韓國鐘
金泰榮

京城地方法院
檢事正　長尾戒三殿

斯くの如く私共が代理人として共產黨事件の被告諸氏がその取調の任に當つた司法警察官中、尤も慘忍横暴を極めた鍾路警察署詰三輪、吉野、大森、金等の警察官に對して告訴した事は、その證據の歴々疑ふべからざる點に於て、素より辯護士當然の職責を盡すものだと信じて居る。

萬一にも斯うした告訴事件が成り立たない様な事でもあつたら全然法律は支配階級官憲の被支配階級彈壓の爲めに利用せらるゝ道具だと云ふ事になる法律の破壞を悲しまなければならない、

夫れで、私は此の告訴を提起するに至つた事情と今後の取調方針について希望を述べて來たが、長尾檢事正も原法院長も司法警察官の間に時々左樣した問題のあることを聞いて常に戒告して居ると云ふ事であつた

今度の共產黨事件被告が、私の處へ送つた事件辯護參考調書に拷問事實の訴へを書いてある事は兼て聞知して居るから充分愼重嚴正な態度を取ると云つて居られたから、眞に愼重嚴正な態度を以て私共告訴代理人の要求した證據さへにも充分に取調られるなら必ず告訴の成立すべきことを信じて疑はない、

私共は一般社會とともに法律の威信の爲めに同事件の取調を監視して朝鮮に於ける刑事裁判の極弊たる拷問司法警察官の斷呼たる制裁を望んで止まない

八頁より續く

して、全支部に波動する危險性は十分に潜んでゐると見て然るべきであらう。言ふまでもなく、左右兩派に分訌するの果敢は、結局當局の飽くことなき彈壓を、徒らに左翼の上に降り注がせる便宜を自ら作るに過ぎない。從つて極めて多數の日和見分子を心ならずも右翼に趨らせる結果を招くこと、陽が東より出づるより明かであらう。這般の事情を知悉すればこそ、本部派は除名說を斥けて極右翼勸誘主義に轉向したものであらう。とするのが此の觀察の根據である。

筆者は謂ふ。强ちこの觀方を否定しはしないまでも――ともかく自助會本部派は鮮かにアナ系の活動を封ずるに成功すると同時に、自助會を守つたので。分裂を阻止したのは事實だ自助會のために、更に自助會本部派のために。と。

手裏剣

◆千三つ新聞、ゴロツキ新聞デタラメ新聞、其名を誣謗者新聞と云ふ。

◆嘘八百をならべる、故に千三つ新聞

◆勞働組合や無產黨を喰荒しコキおろす人もなげなる振舞故ゴロツキ新聞

◆記事盡くデタラメ嘘で固めたヨタ滿載、それでセンエツにも無產者と僞る

◆三千圓で日刊だと小兒ダマシにも程がある、三十万圓でも日刊は出來ない、其の金は彼等の酒代カフエーのウエターのチツプ。

◆晝は誹毀讒謗して夜は富士、タイガーの女給と戲れ、それで革命家

◆五錢で出來たマークを三十錢、一錢で出來た新聞が五錢讀者を搾取する事此上なし。

◆三万突破がホントウなら月に、三千圓はラクに儲かる勘定、人を喰はす

◆自分を惡く言はれると反動化したとホザく、自分丈けは何時でも惡口雜言さながら、資本家の如し

◆勞農黨に×××と銘打つていゝ者がザット×人、評議會の委員長は昨年東洋紡績に買收されたる確實、エライゾ無產者の狐狸共

◆こう云ふと迫めはファシストだと云ふ、貴樣等は何とでも云へ、俺達は事實を事實とする、之れで未だ嘘を云へし事なし

◆近頃貴樣等は生意氣になり過ぎた。改めないと鐵拳だぞ。

◆ペチブル共の鼻たれ小僧、貴樣等は無產者といふ字を何と解釋するんだい。

◆字典に何と書いてあるんだ何んだと、利用すべきものだと。

◆その心掛けだから空つぽのデタラメも言へるのか。

◆へヘンだ、あまり圖にのり過ぎると一撃食らはすぞ。

昭和二年度の社會運動を見る

佐藤護郎

今、本年度の社會運動の足どりを眺めみるに、非常に堅實な静粛な足どりであつたことを喜ぶ。

昨年の十二月は、勞働農民黨の分裂、次ぐに社會民衆黨の發生、更にその胎内には、なほ幾多の分裂的傾向を孕んで遂に本年に持越された。隨つて本年の社會運動は、それだけに多難であり、それだけに傍觀者の興味をそゝつた。

◇

昨年十一月勞働農民黨の分裂のために、その單一無産政黨の夢を追ふて、それを信じてゐた中間派組合の日本勞働組合總聯合、日本司厨同盟、日本製陶同盟、市電自治會(の有志)等は、遂に政黨運動のわづらはしさを感じて、政派外の團體として中堅同盟なる名稱の下に團結した。この團體は、統一された指導下にあつたものでなく、何らかしらの立場を求め様ために、評議會、總同盟以外の、そしてその中間の位置に落つくところに一致をみた。無論、この何等の統一的指導のない團體が永續しやうとは誰も考へてゐなかつたが、數に於て當時の覇權を握つてゐるものを、利用、統一しやうといふ野心は誰しも考へたところである。

◇

これを、最もよく看破したのは、勞働農民黨の分裂以來、總同盟内部にあつて、怏々として、赤松、松岡一派のために酷使せられつゝあつた、麻生久君の一黨である。總同盟が勞農黨と告別して、更に社會民衆黨を結成して以來は、特に麻生久君等の情熱は燃えあがつてゐた。それは、麻生君が昨年の十二月號の解放紙上に書いた左の一文でもよくわかる。

『人々は恐らく、今年末から來年初頭に至つて、正義派の運動が勃然として起り來る事に逢着するであらう。そしてそれこそ眞に日本の無産階級運動の統一的大革命運動である。』

◇

そして本年の初頭に至つて、互然總同盟は再度の分裂を實現して、麻生君一派は凱歌をあげて中間派結成運動に盡力した。その時、前記中堅同盟を引き入れ様としたのは勿論である。また、この中間派結成運動は、當時の左翼的位置を占めてゐた、日本農民組合の分裂を捲き起して、全日本農民組合を結成した。そして、この陣容は、中堅同盟の各組合とこの分裂派の二大組合とを合して、日本勞農總聯合を組織し、約十万の組合員を四圍に誇つた。同時に、日本勞農黨を、結成して、勞農總聯合内の或部分を地盤とし、又は『社會思想』社同人を背後にかまえて中間派進出の準備をとゝのえた。

◇

一方、左翼派は、組合評議會のみの地盤には空虚を感じて、新に統一運動同盟を組織して、評議會を初め、東京市從業員組合、交通總聯盟の一部、芝浦勞働組合の一部、その他散在する全國の各組合を網羅して進出した。これは昨年末から本年初頭にかけての進出振りである。そして從來の指導的位置にあつた山川均氏は、理論闘爭の結果、福本和夫氏に一擊され、左翼陣營を一時立退いて行つた。そのために、左翼陣營は福本イズムの旗の下に統制を急いだ。「無産者新聞」「マルクス主義」その他の有力なる機關は、全くそのために占有され、更に統一運動同盟の機關雜誌として「勞働者」を新刊して愈々左翼陣容を堅めて行つた。

◇

右翼は、昨年末の勞働農民黨より脱出して以來、勞働總同盟及び獨立勞働協會を中心として、社會民衆黨を組織し、極力右翼陣營の結成を急いだ。その地盤として、先づ總同盟が主力となつて、官業勞働組合、海軍聯盟、海員組合等に色目をつかつて提携を希望し、なほ總同盟自體の組織方針に於ても深甚なる考慮をなし、金屬機械産業等の左翼的性質を有するものへは、その主力を注がず、紡績産業等の右翼的性質の工場へ全力を盡すに至つた。隨つて、從來の其の地盤は徐々に崩壞する、

十一月七日

かの歐洲大戰の渦中から勃興して、その根底をきづかれた勞働者、農民の國は、世界の隅から隅の人達に、或は云ひ知れぬ恐怖を、或は輝くような希望をあたへて、今日に及んだ。ロシヤはたゞ單に自らの地位に甘んずる事なくして、第三インタアナショナルによつて世界の被壓迫階級によびかけた、この資本主義國家の支配階級によつて恐怖と疑惑の中心であつた勞働者農民の國の礎定まつて十周年の記念祭が全世界に渡つて盛大に行はれた

日本の反動王、田中首相はロシヤ大使館の記念祭に出席した。内心はなはだおだやかならざる事勿論であつたが、いゝかげんな事を云つてゴマ化したのであろう。日本の支配階級の内心はなはだおだやかで無い證據は、その日、各無産團體で行はれた記念日の催しが何の苦も無く中止解散の憂き目を見た事を見てもうな

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

反面に於て、新らしい地盤は徐々に開拓されて行つた。

◇この政黨を中心とする社會運動の渦の外に立つて自由聯合派の運動はどうであつたか——昨年末よりアナルキズムの傾向は、漸く個人本位主義の思想より覺めて、社會主義的傾向を有すに至つた。當時アナルキズム文壇の一部に於て超個人主義を唱へ出した一例に於て明かである。隨つてこの思想が、自由聯合派の中に浸透しつゝあつた。そのために昨年末より本年初頭にかけては、從來の全國印刷工聯合會の機關紙「印刷工聯合」を「自由聯合」と改題してその機關紙となした等、從來の統制の習慣を積極的に改革して統制する組織方法を講じた。

◇大體右は、愈々本年度の新舞臺へ登場せんとする樂屋のぞきである。然らば本年はどうであつたか——右の如き準備をなせる各組合及び各黨派は、愈々全面的社會運動の中へ默々として進展した。

それは、一つには、政府のモラトアムの實行を契機として、日本の經濟界は明かに大恐慌時代を意識し、資本の當事者諸君はその安定のために百方盡力し、今なほそれに狂奔しつゝある。この資本主義者諸君の意識的恐怖は、必然的に政治權力と提携し、資本の集中と事業獨占の中に唯一の安定を發見すると同時に、中小企業家への極端なる壓迫を與へた。同時に、これ等中小企業家の多い日本の情勢にあつては、失業者の續出、生活不安といふ重大な事件が勞働者階級の頭上に投下された。隨つてそれを意識せる勞働者の大群は、急激に階級戰の陣營に飛込んだ。この情勢がまた本年度の社會運動の勢向を決したことは言ふまでもない。この客觀的情勢は、特に大筆するに價あるものである。

◇では、默々として進展したる各黨、各團體は如何なる展開をなしたか——福本派は初期の政治主義的傾向を徐々にぬぎ捨てゝ社會的役割を重要視し、混合型を廢棄せよ、とさけんで、勞農黨の役割、評議會の役割を規定し、更に婦人運動、農民運動、水平運動の役割を明確に區別して、それをマルクス主義運動の一環の運動たらしめんと努力するに至つた。日勞黨派は、この波に押されて、部分々々の運動（例へば婦人運動の如き）を模倣し、その運動傾向におくれない樣にと、努力した。右翼派は徹頭徹尾反動傾向を追ふて、大資本との積極的妥協を信條として、大資本主義の下に追從する大組合主義を幻想してほゝえむに至つた。自由聯合派は、堅實なる足どりを以て社會主義的鬪爭の中に進出すると共に、個人主義者との全き離別を實現して內整に餘念がない更に反動主義者共は、愈々その反動ぶりを露出して努力を振ひ、將に埋沒せんとする餘影を地球の一隅に滯はしてゐる。

◇かゝる情勢にあつて、無產階級運動の仲介的性質を有する「山川黨」「大衆社同人」「社會思想社同人」の消息はどうであるか——福本一黨に×××××を横領せられたる山川一黨は、その傘下を鼓舞して、本年五月コミンテルン執行委員會幹部の見解せる、日本の統一戰線に關する決議を提げて、福本は獨逸の極左系なる、ルカチ、コルシユ、ルート、フイシヤー等の獨逸共產黨より除名された一派と同一種類のものなり、とて宣戰を布告し始め、これに和したる「大衆社同人」一派は同じて福本一黨排撃を開始した。更に、日勞黨の內部に深い根據を有する「社會思想社同人」一派は、山川一黨の日勞黨侵略策といかなる鬪爭を始むべきか、それとも簡單に妥協すべきか、更に「大衆社同人」一派と「山川一黨」とは蜜の如き甘き語らひをつゞけ得るや、否や、更に福本一黨と山川一黨との×××××奪取爭ひは如何になり行くや、これ等は益々興味ある宿題として昭和三年度に繰越されべきもののみである。

追記　これは、もつと系統的に委しく書くつもりであつたが、紙數の都合上飛躍的に結末を結んでゐる。筆者としても實に殘念であるが、この點讀者諸君の御了恕を乞ふ。

進め社パンフレットを讀め

農民諸君に與ふ

一部十錢

づかれるであらうと思ふ。反動團體建國會が日給二圓ぐらひで雇つた暴力團をひきいて、勞農黨、評議會、大山、河上兩氏の宅へ襲撃したのもこの記念日に一つの色を添へた出來事である。何しろ、こゝは反動政治の亂舞する土地柄故こんな事はありそうな事である。

しかしながら、如何に反動が旺盛であらうとも、無產階級解放の目的には變りはない。それだから、喧嘩の一つ二つぐらひ起つたとて何の不思議もないのである。日本の解放運動の前衞隊として自ら誇る勞農黨や評議會が建國會の馬鹿にあばれられて默つてゐるのは、無產階級の威信に關する事であるし、亦このまゝ放つておいては、建國會に味を覺えていろいろな反動團體が勃興するおそれがある。無產階級はこうした反動團體の出鼻を挫いてやる事が必要である。無產者新聞の御意見を伺ひたい。（ロシヤ革命記念日）

K　生

全土戰報

飛報二三

一、志士は立つ

横暴に近い南野尻村自治、村會議員や役場の者共は村政を私有して當然なりと考へてゐた、見よ、彼等の暴狀を、最近の事實を見ても農會の私有獨斷、有權者無視の農會議員の選擧、政治ブロカー共の勝手に選んだ東礪波郡二万七千石用水議員の公認、土地賃貸價格調査委員の選擧！ 等に、彼等の横暴は極度に達した。貧乏人ども引っ込んで居れ、何だと！ 危險思想奴！ と高をくゝつて馬鹿にしてゐた、ウラヒラ者の村政閥に突如として一擊を加へたるのに前進め社支局城寶光君があつた。

彼や一介白面の無產青年、その戰術は特權階級專有の二万七千石用水議員候補の名乘りをあげ一夜にして、制限選擧の下に行はれた敵陣を突破せんとした。惜しむらくは當日戰法を誤り一敗地にまみれたが、村政始まりてより以來今度の如き猛烈なる競爭戰の行はれたことはなかつた。

二、昭和の虐政

土地賃貸價格調査の結果南野尻村のみに限らず舊步一反步四反步（新步としては三百步）に對していままでよりも年貢米を六斗以上も取りたてることを地主は考へた。よこさねば法律で取つて見やうと云つた樣な調子であるので小作人共は血眼になつて泣き始めた。德川以來明治大正を通じて通つて來た年貢米を今度の土地賃貸價格調査の結果反當り四斗も取るとは、何たることで、これ文明の逆轉、昭和の惡政である。

これぞ往年露國皇帝が發した人民襲擊法の二の舞的な立法である。この爲に布施氏に對して進め社支局は前後策の質問を發すべく、それの應答には進め誌の新年號を拜借したいとの話である。

三、新興勢力かくて擡頭

小作人組合は今までなかつたが此の問題に刺戟されて組織されんとしつゝある。

政治運動を主體にする、前進め支局城寶光君を執行委員長とする自治俱樂部の結黨式は目前に迫つて來た。追つて詳報する。

四、あわれむべし日農黨

誠意なきものは常に亡ぶ。日農は根底から亡滅してしまつた。彼等の爲に無產政黨運動は汚され彼等の爲に庄川堰堤反對運動は旗を捲かねばならなくなつた。嘘つきをやるな、詐欺的行爲は無產運動の大禁物である。大鉦君よ吉田君よ、北陸同盟はいづくにありやなにをしとる。

日本農民新聞で左翼の中傷だなどゝ云つて本誌の記事を笑つたではないか、富山縣に於ける縣議總選擧の結果を見て君は何と思つたか。政治はおもちやではない。

五、村政を監視せよ

村政を監視せよ、產業組合を調査せよ、其處に行はれる多くの不正を、それは常に無產者の上にかゝつて來る重荷の製造場であると云ふことを此の主張のもとに近く南野尻村に於て村民大會が行はれる筈であることを附記して報告して置く。

全國の進め社諸君、前進せよ。

（富山縣　野村祐一）

暴壓に面して

僕達が同志八名と相寄り無產者の夕べを催した。このことをドコで嗅ぎだしたのか××××××××。そして、治警に抵觸するから速刻解散せよ、若し强ひて之に反對するなら檢束すると云ふ口吻であつた。僕達は研究の自由を說破したが、官憲を侮辱するものなりと法規を楯に三日間拘束されてしまつた。馬鹿々々しくて話も出來ぬ。それからと云ふものは所轄署の巡査が毎日のやうにくる。ドドのつまり出勤先まで付きとめて、馘首されたのだが、壓制もこゝまでやれば十分だらう。自分の留守中に默つて書齋に入り、本棚をいじくり廻して歸つたりなぞしたこともある。官憲は全體誰のためのものだらうか。强盜や殺人の横行する今日これらの犯人を補へる藝能もない彼等だ。青年學徒の純眞なる向學心を抑壓し、研究の自由を冒瀆して恬然たるには、アキレてものも云へぬ仕末だ。地方の新聞の編輯者も無智なもので、警察で發表する與太記事を漫然と三段ヌキにも揭げてゐる。之で以て新思想を解するなどと、無冠の帝王も何糞食らへだ。名古屋でこの甚だしいのは新愛知だ。政友會のためなら邪も正と抗辯して、黑も白と云ひ張るのは笑止を越えて、寧ろ悲慘である。愛知縣警察部のうちで門前署などは暴壓の張本人

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

だ岐阜縣では八百津署などがそれだ。天下の同志諸君、如斯、不當なる×××に鐵槌を加へられん事を望む。

風上におけぬ奴

（名古屋 中 佐藤義朗）

風上におけぬしろ者が山陰にもたくさんあるが、仲にもズ抜けた標本的人物を『進め』紙上に紹介し、いさゝか山陰大衆の赤全國の同志諸君の注意を促したい。

全日本農民組合島根縣聯合會を最近除名された書記某と云へば、たいていの人がはゝあなるほどとうなづくだらう。そやつこそ長い事山陰大衆をゴマ化し、赤幾多の先輩を愚弄して來た男で、卑怯で陰險で小手先細工を弄する事で有名であつた。この男は到頭山陰大衆の信用を失つて、何處へも行き場がなくて東京へ出てゐるとの事だ。

この先生ぐらひ、思想の朝改暮變する人物はまれだらう。日和見主義が一番いゝと自ら放言してゐたかと思へば自分は眞正なマルキストだと云ふ。或は勞農黨へヘコヘコするかと思へば、たちまち日勞黨へヘコヘコする。勞農黨員の人の所へ行けば『杉山、淺沼なんかなつてをらん』と云ふし、日勞黨の人の所へ行けば『福本主義・ぐらひ社會運動をわざわいさせたものはない』と云ふ。『進め社』など隨分、國の方では糞の様な事を云つてゐるが、上阪赤は上京するとヘイヘイ云つて訪門し一夜の宿と飯にありつかうとしてゐるが「進め社」の人も近頃はてんで相手にしなくなつたらしい。東京へ行つても行かれないだろとの國での評判だ。

こんなしろ者には、山陰の無產階級は、勞農黨の連中も、赤は日勞黨の連中ももう振向きはしない。その證據には全日山陰聯合會からは追出されるし、除名の理由によつた彼と勞〻黨との關係も、勞農黨がすつかり愛想をつかしてゐるので、勞農黨へも行く事は出來ぬ、ダラ幹の末路赤哀はれむべしだ。全日を出た木村君、山根君などは「彼は信頼出來ぬ人間だ」と云つてゐる。

こゝに不思議なのは、本部の三宅正一君等の態度である。なぜなら、この勞農黨と策動して全日支部を攪亂し脫退を勸告した筈の彼を東京へ引張り出して本部においてゐる事である。

彼は東京へ行つてからは、昨日の思想もなんのその盛んに田所君等の御先棒となり、福本主義の害おそるべしと云つてゐる。男らしくない奴だ。內またコウヤクとはこの事だ。

こんなしろ者がやがて東京でシッポを出すのは見えすいた話だ。社會主義者は男の中の男の仕事だ。もし、私が彼の立場に立つてゐるなら少なくとも運動より退くか、赤は勞農黨好しと信ずれば萬難を排して勞農黨へ入黨する。然るに除名されんとするや、掌を裏返す如く日勞黨幹部に哀訴嘆願するとは何と云ふザマだ。

無產階級の風上におけぬ奴は、アメリカへでも放逐しろ。アメリカあたりならまだ彼の様な人間の一人や二人おつたつてかまはぬだろう。どうだね、世界漫遊とシャレ込んでは。呵々、

風上におけぬ傳染病の黴菌は速かに退治して了へ。（米子 H生）

大牟田の同志諸君に訴ふ

私は本誌三月號に掲載された全土戰線欄の大牟田雜信に就いて、大牟田の同志に對して一言反省を促したい。

元來、私は味方の强大なる戰線を作るには、先づ味方の內部より整理せよ、といふことを深く考へてゐるものである。

此の意味に於て、私は決してロシヤ派の如き惡辣なる乘取策や、直譯的なロシヤ主義を奉じてゐるものではないのだ。

それは、私の鄉里、大牟田に於て勇敢に資本の牙城に突進してゐる同志諸君と、又將來の吾が大牟田の勞働運動、乃至は無產階級解放運動を思ふ時言はざるを得ないのである。

抑々大牟田の勞働運動が勃發したのは極く最近のことに屬する。

だが、同志諸君の健鬪によつて着々と發展しつゝあるのは、喜ぶべきことである。私はひそかにそれを喜んで、そして他日を期してゐるものである。

成程、大牟田に於ける勞働運動の歷史は短かくはあるが、決して平凡ではなかつた。

同志諸君は常に壓迫と迫害を忍んで戰つて來たのだ。

が、不幸にして正義の戰ひも常に失敗に終つてゐた。

資本主義の牙城

それこそ、三井王國が全國に誇つてゐた言葉だつたのだ。

大正十三年のゼネラルストライキは、我々に取つて決して忘れることの出來ない事件であつた。

だが其れも我々には眞に悲しむべき記憶としてのみ殘つてゐるのだ。

陋劣なる切崩し策。官憲の取締りと、そして反動團體のベッコとが其の敗因であつたことを思ふ時吾々の心は彼等に對する憎惡で燃え上るのだ。

彼等は憎んでも餘りあるものである。

私は、先きにも一言した如く、決して味方の陣營を攪亂せんとするものではないのだ。

大部分の進めの讀者諸君は、恐らくあの三月號の記事を、何等注意することなしに讀まれたことであらうと思ひますが、私は諸君に左の二項を訴へたいのである。

（第一）、日勞黨委員長には元三井炭坑の技師見谷氏を推戴し云々見谷氏は私は精しくは知らないが何でも今年の衆議院議員の補缺選擧に政友會の公認候補として出馬された方であり、又三井の上級の社員さんである關係より見る時に彼は取りもなほさずブルジョアであることは確しかな事である。それに解放運動に理解を有つた人らしくもない。

それにあの記事の筆者はさも誇らしく書いてあるのだ。

これではあの演説會の時に、見谷氏を通じて？　三井から澤山の金が出た？　と云ふことを言はれても何とも返答が出來ないだらうしかし、私は今でも此説が單なる風聞に過ぎないと云ふことを、信じてゐるものだ。

（第二）、武藤氏が別に大牟田坑夫組合を作り云々。武藤久太郎と云へば大牟田の所謂顔役で反動の骨頂である。

我々は彼の十三年のストライキの際、三井の走狗を務めた反動勞力團の頭が彼であつた事を思ふ時うたゝ感慨にたへぬものである。

諸君の家庭を省よ。とか行商團より物品を買ふなとか、いふビラを貼つて歩いたのは彼の憎むべき武藤だつたのだ。

そこで、私は最後に小松道俊翁に一言したい。いやお頼みしたい

解放運動は飽くまで眞實をモットーとせねばならない。

眞剣味の缺げた解放運動は決して眞の解放運動と云ふことは出來ないのである。

恐らく、私の敬愛する道俊翁は眞實味のある解放運動者であつたと思ふが、若しも誤つてそれが利益のための運動であつたなら、それはあのブローカーと云ふものである。

私は叫ぶ。

大牟田の勞働運動より武藤を葬れ！　さもなくば、大牟田には眞の、大衆的な勞働運動は永久に起らないだらう。

私は次の様なことを、私の兄でありまして三池の一勞働者である人より聞いた。

今年の萬田炭坑の爭議（小さくはあつたが）に、全山の坑夫が案外冷靜であつたのは、武藤が十三年の……。

それを考ふる時、私は武藤の存在が、如何に大牟田の勞働運動の發展を妨げてゐるかゞ分るのである。

武藤が大切か、大衆が大切かは眞實に物を考ふる者になら誰れにも分ることだ。

敢て、苦言を呈して同志の反省を促すものだ。小松道俊翁はもう一つ、水道問題（惡水問題）の内面のことをも考へてもらひたいもんだ。（大阪にて愛郷生）

團結して戰へ

金持の親爺は奢侈を盡して、宏大な邸宅の建設に油汗を搾つてゐる。

所が吾々プロレタリアーの製絲女工達、亦は農民、自動車製作の職工各種勞働者が、一生懸命に或は天然絹糸、自動車の修繕等に終日汗を流して働いてゐる。

然るに、彼等製絲の可憐な女工等はどうである。懸命に！　血と汗と涙で天然絹絲の製造に身を盡くして働く彼女等の勞力をブルヂヤツラが目方に於て之を胡魔化し又賃銀等も比較的安く、無智な彼女達より搾取して今迄儲けて來た

長野縣内岡谷に起つた、一千餘名の製絲男、女工等の同盟罷業もそれである。そして製絲の女工等は漸やくにして贏め得た、賃銀を以つて、買ひ求めた、彼女達の晴着は何んであるか？　それは人造絹絲と綿絲の交ぜ織である。

越後の農村人は、精を出して上等な、日本米を生產してゐる。だが彼等の人々の口腹を滿たすものは何である、それは、外米ではないか。

自動車製作工場へ勤める彼等職工達は疾驅する自動車が飛ばす、泥に追ひのけられ作ら、テク〱と歩いてゐる。

ブルジョアのキヤツラは其の自動車に平氣で乘り、工女達の汗を流して、造する絹絲を、ブルジョアーのキヤツラが平氣で使つてゐる。

然るに吾々プロレタリアーの、農民勞働者は野良て、女房共働ぎで一寸の暇すらなく働いてゐる。それでゐて一生貧乏をして、食ふや食はずに死ぬまで、働かなくてならぬのか！

全土の青年諸君、勞農青年同盟は人類文化の柱石である。資本主義社會から、吾等は人間權を奪還せねばならぬ、此の正しい正義の要求に反對するものは、何人も問はず、此の社會から蹴とばしてしまはねばならぬ。

それには、確つかり結び合つて一絲も亂れず團結して鬪かはねばならぬ。

そして鬪に勝つた時、それは搾取のない社會になつた時だ、全國の勞働者、小作人全世界のプロレタリア兄弟姉妹よ、一致團結し！然して鬪爭に打勝て！

（長野縣　丸山正之）

プロレタリヤ青年の使命

現政府が發行を黙許した[illegible]だから讀もうが讀むまいが俺の勝手だと思ふて居た所仲々そう行か

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

進め

ない。我等無智なるを知りつゝも壓迫する「今後讀んで見よ處分するぞ」との當局の鼻息だ俺の頭は靜思すればする程矛盾と不合理が洪水の樣に押し寄せて來る。

害毒雜誌は智識啓發の爲に發行し製作するのだ保證金を納め税金を拂ひ内務省の檢閲を通過して、堂々たる害毒雜誌を愛讀すれば××××、××××××××蹂躪を加へ、其れのみか何里も遠い警察署まで引張られ散々攻撃を受ける。熟考するに不思議でならない。成程と云ふ理窟が俺には惹起せぬ殊に主義者は恐るゝに足らず落伍者のやる仕事だと盛にメートルを擧げるが然らば避村片田舍の俺の樣な青二才まで引張る餘地はない筈だ寫眞を撮つたり筆蹟を寫したりする奴等の態度が、はかられん不可解暗礁殘虐に突き當る其れだけ現社會組織に欠陥の多き事を深刻に意識するのだ。此の誤れる社會組織の改革は學者でも名士でも政治家でも出來ない、俺達プロ青年にして出來得る事業だと堅く知つた、だから俺は研究に運動に猛烈に突進する、俺もう立派に叛逆者としてスタンプを押された。先月來目玉の赤い×××××騷がれた。

これで愈々同志としてのスタートを切る。進め志諸兄、全國讀者諸兄姉、永久に御見捨てなう宜しく〳〵御願する。

（高知縣　小林浪雲）

會津地方の無産者運動

最近會津地方一體に電燈料の値下運動が起つて私達は惡らつな官憲のために非常な壓迫を受けつゝ全會津の先頭に立つて鬪爭をつゞけてゐますがその中での二三の事實をお知らせして諸君に僕達の苦しみや喜ばしさを考へて頂きたく思ふのです。

十一月一日夜喜多方町の演説會に頭の髮ばかり長くして一角のアナーキストぶつてゐた二三の青年電燈料値下の演説會に下手な彌次を飛ばしてゐたが皆から資本家の手先をなぐれと言ふので散々になぐられ逃げて行きました。アナーキストわ大衆運動を指導することわ眞實に出きないとつく〲考いました。

十一月四日の午後一時から本郷町で同じく値下要求の演説會を開催するはずでしたが、資本家の御用ぶりを發輝した警察署長は會場が不完全であると言ふので中止を命じてしまつた。實にこの場所は本郷町の常設館とも言われてゐて或る工場の跡なんだけれども僕達のにはやらなせなかつたのです今迄の政友會や民政黨の演説會はやらして置きながら實にその横暴ぶりは骨身に徹しました。

その夜若松市でやりました、が開會僅か三十分で解散してしまいました。集つた人はみんな靜かに聞いてゐました　辯士もおだやかだつたのです、所で僕達に抗議されて署長わ何と言ふたか、「團結して社會にあたれと言ふたのが惡い、」諸君この手先ぶりを何と見る。諸君、あくまで俺達わやる、會津地方の電燈料の値下運動を應援せよ。

（會津　猿山汗名）

ロシヤ革命記念日

我が下伊那に於ては十一月七日露國革命記念日を記念する各無産各黨は結束し、電燈料三割値下げ運動を行つた。赤血氣にはやる（それが我等無産青年の持つべき心根である。）全國無産青年同盟會下伊那支部員二名は「ロシヤ〇〇國際戰爭と戰へ」等々の文字列記のビラを各電柱に散張して飯田署に檢束された。かようにして生立ち行く將來こそ我々は待ちこがれてゐる。（長野縣山吹村　富井滕二）

團結の力を示せ

最近の不景氣に、千人二千人、といふ大膽な首切がはじまつた。金儲け以外には、義理も、人情もない資本家の奴輩は、やはり俺達兄弟を、金搾りのために使つてゐるのだ。からして、多數の失業者が、食ふや、食はずで生活してゐるのにもかゝはらず、政府の奴等は、ちつぽけな紹介所で間に合はせてゐるんだ。

職業紹介所には、失業者が、立推の餘地もない程だ。しかるに、半日しか紹介してくれない。×××××××、失業者は食ふや食はずだ。少しは同情しろ。

現代は何といつても、ブルジョアの世の中だ、俺達は只今の處、忍從するのみだ　かうした忍從はやがて俺達が團結力を促し、未來ブルジョア階級を××することに依つて、俺達の社會が建設されるのだ。

「萬國の勞働者團結せよ、」と、カール、マルクス、はいつた。

俺達が一日早く團結して、共同戰線に立つ事は、一日早く俺達の社會が建設される事だ。

（小板橋猶二）

全土戰報投稿規定

地方における無産運動の狀勢、即ち演説會、大衆運動、爭議、選擧運動等を送れ。

支配階級の奸策例へば府縣會の腐敗、官權の暴壓、裏切者の行爲、反動主義者の暴擧等々を送れ。

十六字詰の原稿用紙住所氏名明記の事、掲載の分には「進め」メダルを贈呈する

締切、毎月九日

十一月及び十二月號に掲載した人は大至急住所御一報を乞ふ

編輯部

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

福田博士に與ふ（續）

向軍治

福田君曰く『インフリュエンスは何時でも影響だと思ふは中學生だ』とあります。中學生でも、よく〳〵の低能者ならざる限り、モット話せます。パクーニンの句で、私が譯出したものの原文には『インフリュエンス』抔と云ふ語はありません。イル、エグゼルス、シウル、ソン、パルテイ、イウンヌ、アエンフリウアンス、サージウ（福田君はフランス字綴の儘掲げて居られる）とあるのであります。『インフリュエンス』と云ふ語は向式フランス語、向氏ドイツ語には存するものと見えます』と。是れ擅に讀者を無學者と前提して掛つた謊言である。此一節で福田博士が、啻に外國語が出來ない丈けでなく、日本語も知らない男と云ふことが判然する。人の文を讀む時は今少し人の文を味はふ力を養成して掛かれ。無學な男め。福田君は知らないだらうが、中學生の口吻を描き出す時には發音も中學生風にするのが修辭學の法則だ。無學なる博士も居るものだ。修辭學の法則も心得て居ない。だから支離滅裂な議論をするのだ。英語ではインフルアンス、佛語ではアエンフリウアンス、獨語ではアインフルツス、皆影響とか勢力とか譯す字だ、インフリュエンスは、英語でもドイツ語でも、フランス語でもない、中學生の發音の眞似だ。自分が文章を書く術を知らないから、他人の文章を讀んでも、其の用語法を味はふことが出來ないのだ。全く薄つぺらなハクチだ。インフリュエンス杯と云ふ語はありません、アエンフリウアンスとあるのです」は下女の程度だ。私の宅に昔岐阜の女中が居たことがある。「たけ」と云ふ女であつた。私が或日「たけ、牛乳を持つて來ておくれ」と呼ぶと、其女中「旦那様、牛乳はありません」と曰ふ。「無くはない。戸棚を明けて御覧。乾度コンデンスの罐がある」と詰ると、女中透さず「アレは牛乳ではありません。ミルクです」。蓋し牛乳屋の運ぶのが牛乳で、罐詰のはミルクと覺えて居たのである。日本一の大博士の知識の程度は女中の程度だ。

本來此處は「影響」だけが誤譯なのではない、一句全部間違つて居るのだ。四月號には、簡單に讀者に判り易く、短い言葉丈けを擧げて置いたのだ。此度福田譯が全句間違つて居ることを素破抜いてやる。面の皮の限りなく厚いことを證明するのに都合が善いから。福田君が引用して居る佛文は「彼は其の黨派の上に巧に勢力を振つてゐる」と譯すのが本當だ。原文にある「賢い勢力を」は「巧に勢力を」と譯さねばならない。馬鹿が復副詞と形容詞とを間違へたと謂ふ恐れがある、前以て斷つて置く。福田譯の「今日まで彼の爲した所は、彼の黨に對して善き影響を與へて居る」は全部間違つて居る。「來るであらう」も本來「出來するかも知れない」（「起るかも知れない」と云ふ意味）と譯すのが本當だ。寛大にして置けば、イ、氣になつて附上る。此度は容赦しないで、全部サラケ出してやるから覺悟しろ。向式論法を「岡ッ引法」は中らない。向式論法は蹴手繰法だ。先づケタグリを掛けて、後に背負投を喰はせるのだ。

福田君又曰く「ロエールは時機ではありません。時刻と云ふのが正確です。其れを私は時期としたのです。時機よりは、原語に近いと存じます。」と

是れも女中の程度だ。私の宅に岡山の女中が居た事がある。「スエ」と云ふ女であつた。或日家内が冗談に「スエ、お前の國では、此の御客様の御通りになる部屋をダシキと謂ふだらう」と曰ふと、其女中曰く「イ、エ、ソンナ事は中しませんよ」。「何と謂ふ」「オダシキと申します」。

私は四月號に左の通り曰つて置いた。

「凡ての事に時（佛語で、ルタン）がある、此の戰を始める時間（ロエール）の鐘はまだ鳴らない」と原文にクライマクス（語氣をせり上ること）が使つてある。「時計がまだ時間を打たない」とは「機が熟しない」と云ふ意味。前の「時」と云ふ字に對して意味を强めたのである……原文の意味が判然して居れば、日本一の博士ともあらう者が、「時期」と「時機」とを使ひ誤る筈はあるまい。

是れは福田君が「ボルシェヴヰズム研究」七四頁に「乍去凡ての事には時機がある、此戰ひを始むべき時期は今未た到來して居ない」と譯して居るのを攻撃したのである。ル・タンを時機として、ロエールを時期とするのがアベコベだと詰つたのだ。福田君の程度は確に女中の程度だ。私が今世風の言葉で「時間」と譯して置いたのを、殆ど死んだ言葉で「時刻」と譯して居る。四月號の私の說明の意味が判然しないとなら、中學生程度ではない、其下だ。小學生程度の博士――是れ實に日本でなくては見られない世界の珍品である。

「來るであらう」は『原文では、フランス語にも、ドイツ

語にも、來る可能性がある。」となつてゐる』と仰せられますが、其れは眞赤なウソです。ベクーニンに佛獨兩樣の原文があるとは、珍らしことを承る次第ですが、私の引いたのはフランス語でして、其れにはイル、プールレータリヴエーとあるのです。フランス語のコンヂショネルは到底其儘日本語に譯出することは出來ません。場合に依て、夫々違つて譯さねばなりません。彼の場合には、「出來るであらう」で別に間違つては居ません。

「福田君の七月號の返事全體から推すと、福田君は私がフランス語を知らないと前提して居るらしい。其れが已に滑稽であるが、此一節で其の知つたか振をする滑稽が一層善く現はれて居る。「進め」の讀者を呑んで居ることは無論であるが、其れにしても、此一節の樣な恥晒しがよく平氣で出來ることである。確にハクチハクシだ。此んな男のために大事な紙を浪費するのは、國家の損失ではあるが、無學の廣告を自ら好んでする男の手傳ひをしてやるのも、一興であるから、ウンと云ふ程面の皮を剝いでやらう。「眞赤なウソです」はどちらの言ふことだ。自分でイル、プールレータリヴエーと云ふ原語だと、フランス文を其儘紹介して居るではないか。此フランス語の意味が「起ることがありうる」即ち「起るかも知れない」と云ふ意味であることを知らないとすれば、確に曉星學校の小學生にも劣つて居る。「起るであらう」はフランス語では唯イル、アリヴレーと云ふのだ。アリヴエー(起る)のコンデイショネル即ちアリヴレーなら「起ると推定せられる」即ち「大方起るだらう」と云ふ意味になる。英語でイット・ウッド、ハプンと云ふのだ。イル、プールレータリヴエーは英語ならイット、クッド、ハプンと云ふのだ。ウッドが推定を表し、クッド(即ちプールレー)が可能性を表すことは中學生の皆善く心得て居ることだ。知らないのはハクチだけ。從つてメーリングはエス、コエンテ、コメンと譯して居る。フランス語のプーヴオアール(能ふ)のコンデイショネルである。プールレーがドイツ語のコエンネン(能ふ)のコンデイチオナールであるコエンテンに相當するのだ。此一語の飜譯で福田君が英獨佛皆出來ない男だと云ふ事が善く判る。

ベクーニンには佛獨兩樣の原文はあるまいが、佛文獨譯抔福田譯の原文だ、馬鹿野郎。「到底其儘日本語に譯出することは出來ません。」が滑稽だ。ダーヴヰンに謂はせると同じく猿の子孫の人間だ。フランス人と日本人と大した違ひはない。フランス人の言へることが日本人に言へなくて溜るものか「出來ません」が滑稽だ。無學な男が、自分で出來ない事は他人にも出來ないと思ふのだ。知りもしない癖に「出來ません」と斷言する面の皮が見たいものだ。

高畠氏の誤譯に關しては「向氏が日々新聞へワザワザ投書して「誤譯だらけ」だの「誤譯の標本」だのと云はれたことは、果然漫罵であつたことを此度の向氏の文によつて判然と知ることを得ました」と說き起して、長々と意味のない言を意味ありげににコケオドシ的に並べた後に「安部磯雄さん、小泉信三さん若くは吉野、上杉博士抔が稱揚せられてゐると傳へられる言が、其れで打消されないで濟むことを知りました」と結んで居る。

右は私が五月號に於て「高畠譯には第一頁第二頁第三頁とどの頁も皆間違つて居る。其誤譯の訂正文を公にして、本當に本が讀めるのか否かを證明して貰ひたい」と反問したのに對する答へである、福田君が其文によつて「漫罵であつたことを判然知ることを得ました」と云ふ以上、福田君は、外の頁は兎も角も、私の指摘した頁にも誤譯がないものと思つて居るのに違ひない。イザ似而非學者の面の皮を剝いで御覽に入れよう。

「資本論」本文第一頁に

「商品は先づ外界の一對象である。即ち其諸性質に依つて人類の何等かの種類の欲望を充たす一つの物である。此欲望の性質如何、即ちそれが胃腑から起るか、又は空想から起るかは、問題の上に何等の變化をも與へるものでない

とある。是は「此事柄に何等の變化をも與へるものではない」と譯すのが本當であるが誤譯ではなくて唯の拙譯であるかも知れないから、此事は擧げて言はないことにすると五月號に斷つて置いた。

第二頁に

「鐵、紙杯の如き如何なる有用物も、これを二重の見地、即ち質と量との兩面から觀察することが出來る。斯の如き有用物は、いづれも多數性質の集合體であつて、隨て種々なる方面に有用なる用途を發見するは、史的の事實である。有用物の分量に對する社會的公認尺度の設定も亦さうである。元來商品尺度の多種多樣なることは、一部的には秤量せらるべき對象の性質の多種多樣なるに基き、一部的には又傳習に基くものである。」

とある。此處は、マルクス[illegible]る。」(第三段)と結んだのである。此位に說いて聽かせたら、

ヘクチにでも判然とするだらう。「元來」抔と云ふ字は原文には有りはしない。高畠氏は此三段の論法を丸で了解して居ないのである。併しそれは高畠氏が英譯に誤られたのだ。「も亦さうである」は英譯の誤謬の受賣だ。英譯には獨逸語原文に有りもしない又有る筈のない「オールソー」（も亦）が挿入してある。即ち高畠譯の意味に解してある。ヘクチ大喜びだ「米國にも己達の様な馬鹿が居る」って。文字の表面も碌に讀めない男は飜譯抔出來るものでないと云ふことがヤット了解出來たかね。智慧があれば「恐れ入りました、シミ〲感じました」と謂へ、馬鹿野郎。

同頁に

「物の有用性は其物を使用價値たらしめる然し此の有用性は空中に浮んでゐるものではないそれは商品體の諸性質に基くものであつて、商品體を離れては存在しない」

とある。些細な事であるが、「に基くもので」は誤譯だ。「に左右せらるるもので」と譯するのが本當だ。原文にはベディングト即ち「條件づけられて」とある。英譯にはリミテッド即ち「制限せられて」となつて居る。「性質次第で種々になるものであつて」と云ふのが原文の意味である。之を「基くもので」で差支へないと思ふのはヘクチ階級の人丈けだ。

同頁に

「如何なる物の自然的價値も其物が諸種の必要を充たし、又は人間生活の諸便宜に應ずる適當性といふ事に存してゐる」

とある。是は「何物かの自然的價値と云ふのは、其物が人間生活の諸種の必要を充たし、或は諸種の便宜に立用せられる（原文は、直譯すれば「便宜に役立つ」となつて居る）のに適當してゐる所に存するのである」の誤譯だ。「人間生活の」の係り處が間違つて居る。中學生程度の誤譯だ「中學生でも、よく〳〵の低能者ならざる限り、モット話せます」だ。

以上に出つて、第二頁には一頁の中に三箇所間違ひがあることが、どんなトンマにでも判然するだらう。それが判らないのはヘクチの連中だけだ。

第三頁に

價値とは斯々の一物と斯々の他物、一生産の斯々の尺度と斯々の他の尺度（原文には「他のもの丶斯々の尺度」とある）との間に存する交換關係の中に成立つものである」

とある。原文に前に「一生産」と謂つたのに對して唯「他のもの」とあるので、變な誤譯が出來たのである。文の構造に少し注意すれば、同じ句法が繰返してあるのだから、「他のもの」が「他の生産」の意味である位な事は直に判りさうなもの。全く「よくよくの低能者」だ。「の中に成立つものである」は振つて居る「の事である」の誤譯だ。五月號に「高畠氏が自分で出來ないので他人に頼んだのであらう。其他人が間違つた譯をしたのを高畠氏が其儘自分の誤譯の中へ挿入したのである。從つて誤譯が更に増加して居るのであることを斷言して憚らない」と言つて置いたのは、此んな偏強な材料があるからだ。第二頁の最後の誤譯の結尾の語「に存してゐる」は英語コンシスト・インの譯である。多分高畠氏の譯だ。從つて高畠氏が「人間生活の」の係り處を見誤る位な程度に英語の出來ない人と云ふ事の確證だ。稲田君もレニンの「國家と革命」の飜譯に全く同じ種類の誤譯を遣つて居る。誤譯者の善い一荷だ。第三頁の「の中に成立つものである」はフランス語のコンシスト、ダンの誤譯だ。コンシスト、ダンとコンシスト、インとは同字だ。同一人が譯したのなら、而して其人がフランス語の出來る人なら、中間に僅に十二行距つてゐるだけの處に、前には「に存してゐる」と譯し、十二行後には「の中に成立つものである」と譯される筈がない。從つて前の英語の方が高畠氏譯で、後のフランス語の方が他人の譯であることが明瞭である。「の中に成立つものである」と云ふ譯語から推すと、此譯者は若い文學士か、外國語學校出身者かだ。高畠氏が此誤譯を發見し得ないで、自分の「に存する」の十二行後に平氣で之を判行して居るのを見ると、高畠氏はフランス語は出來ないのだ。故に曰く「高畠氏が、自分で出來ないので、他人に頼んで、其他人の誤譯で、更に誤譯が増加したのであることを、斷言して憚らない」と。稲田君、どうだね。是れでもコケオドシの筆法で何か言へるかね。「漫罵であつたことを判然と知ることを得ました」とは、一體どう云ふ意味だ。松澤抔でも、此う云ふ言葉が、稲田君の意味で、用ひられてゐるのか。高畠譯を賞めたと云ふ人は、全部英語も獨語も佛語も知らない無學の證だ。

「向後向氏が何を書かれても、私は一切拜見しないことに致します」と逃げを打つ卑怯者め。此んな下らない事に大事な時間を費すことは此方で御免だ。併し此喧嘩は稲田君が言ひ出した事だ「向君に誤譯の箇所の列擧を促されては如何。向君の列擧を拜見したら私も卑見を貴誌へ寄稿しませう。云々」と本誌四月號へ揭げた。面の皮は最早剝げたのか。結局殘る所は無學で法螺吹で恥知らずで卑怯者と云ふことを向に證明して貰つたと云ふだけになる。世人斯の如きを名づけて阿房と謂ふ。

八月十日

進めメダル
勞農兵の團結を示せるもの
一個二十錢

植民地民族과無產階級

金光旭

一

植民地는帝國主義의發生的成立의前提的條件이다。帝國主義는植民地를資本主義와軍國主義에利用하고 資本主義的搾取와 軍國主義的侵略은帝國主義를成立하얏다。故로植民地는 帝國主義에母胎가되고 그土臺가된다。

近世帝國主義의最高位를占領한英吉利와 佛蘭西와 極東의日本에就하야보아도 그것은一見判然이알것이다。歷史를 멀이古代에取할지라도羅馬其他의諸帝國은 모다植民地를根據로삼고原因을삼어植民地는其確立條件이되엿스며 國權盛衰의狀態가또한植民地略奪如何에依하야決定되엿다。

封建的制度에依한過去에國家權力은 資本主義를帝國主義에利用하엿다。이것은狹意의舊帝國主義가될것이다。그러나新帝國主義는資本主義가軍國主義를利用하야最近의帝國主義를일으키엿다。故로新帝國主義는國際上의資本主義가되고 國際上의資本主義는即民族主義的國際經濟主義라고見解할수가잇다。

그러면植民政策은 民族主義的國際經濟發展을爲하야하는即『海外의國家權力을普及키爲하야하는政策』이다。故로植民地에經濟的搾取는同時에國際經濟侵略의第一步的段階이며 植民地의獲得은即政治上에國際的侵略이라고稱함이當然하다。

如斯히帝國主義는 植民地로因하야民族主義的國際經濟를搾取하고 進하야政治的軍國主義的侵略을敢行한다。

그러면植民政策이란何뇨?帝國主義(軍國主義資本主義)를爲하야하는××行動이곳그것이며 强者의弱者를××、××하는計策이그것이다。

故로 帝國主義는 植民地를××함에依하야 崩壞되며植民地는帝國主義를絕對排擊함에依하야 비로소完全한生產의發展과人間다운文化와自由을享有할수잇슬것이다。

二

植民地가帝國主義資本主義의桎梏에繫引되여잇는資本主義時代의社會的現狀이라고하면 社會主義時代에잇서서는植民地와其民族은如何한地位을占領할것인가?

社會主義는 ×××× 剩餘價値의搾取를否定하며 徹底的으로排擊하야資本主義社會를××××함에잇다。그러면資本主義帝國主義의成立에條件과 最大搾取에對象이되여잇는植民地는如何한理由가잇다할지라도 即時此를解放하야 單獨히經濟的獨立을建立하며 政治上에잇서서는 또한 絕對데・모크・라시ー를實施하여야할것은 多言을要치아니하야도明白한事實이다。

맑스는 一八六九年『英國에서愛蘭을獨立식이여라』라고絕叫하고『假令그것이獨立後 社會主義國家가아니되고聯邦制에歸着할지라도』自主的自由을賦與하라고英國無產階級에게警告를하엿다。그리고第一流國家의프・로・레・타・리・아・에게階級鬪爭을日常行使케하라고 國際主義에根本原則으로國民에게壓迫을加하는國民은스々로自由에浴할權利와法則이無하다고主張하얏다。그래서勞働者에革命運動의利益을爲하야 맑・스는一八四八年에獨逸의 데・모・크・라・시ー는同國의壓迫下에在한國民에自由를宣言하고 또한此를實行하라고要求하얏다。

레ー닌은 共論文『社會主義와民族問題』中에『民族自決과國家分立의自由權을爲하야植民地民族과協同함은프・로・레・타・리・아・에 最大任務라고述하고政治的經濟的의데・모・크・라・시ー・에徹底化는即社會主義에理想임을高潮하고 帝國主義에隷屬한植民地의奴隷階級과 支配國家의프・로・레・타・리・아・階級의共通的相關々係의密接함을說破하고 프・로・레・타・리・아・의友誼와 그眞實한精神下에서植民地解放을絕叫함을支配國에在한無產階級의最大任務라고하얏다。

그것은即植民地民族이其××××××××××××××××××××××××××××××××××××××全世界無產階級의完全한勝利와 自由가到來치아니함에잇다。

三

如斯히無產階級과 植民地民族은 其解放의途上에잇서서 同一한運命에隷屬되엿슴으로 其鬪爭에잇서々도同一한意識과目的을勇敢히遂行치안이치못할바이다。

帝國主義의×手와 그毒惡한搾取網은×妙한手段과 陰險한政策으로써 無產階級과植民地民族을×瞞하고 그壽命을持久키爲하야諸般의罪惡的××을敢行한다。

萬國의無產階級諸君!

植民地弱少民族諸君!

우리는 特殊的事情과 地理的、歷史的、文化上의關係로그鬪爭過程에잇서서는 스々로分離하여잇스며 相異한戰術을用하나 그러나우리의戰鬪의意識과 其目的은 疑心치아니하고 우리의共同의×帝國主義에××에存한다。

그럼으로 우리의 希望과우리의絕望은同一한價値를有하고同一한意識下에서浮胎할이다。

以上을綜合함에依하야 우리의勝利가如何의團結을要함을自明할수잇다。

『團結하여라 萬國無產者여!』

우리의勝利는다ー만團結함에잇다。

——一九二七年十一月七日

ロシヤ革命紀念日夜——

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

農民運動の現狀に就いて

上杉定義

例へ欺瞞に滿ちたものであり、亦不備缺陷の多いものであつたにしても、今秋の府縣會議員選擧は、無產階級に對して何等かの貢獻をした事は事實である。殊に未組織の勞働者、農民を動員して、組織化した事、及び一般青年が著るしく政治的に自覺して來た事などは、顯著な事である。九月二十八日の大阪朝日の如きも『青年大衆に歡迎せられた無產候補』と題して、府縣議戰において無產青年が政治的に自覺してゐた事、そして其が正しき方向に進みつゝある事に驚いてゐた位である。無產階級運動も大正十一年を契機として方向轉換し、經濟鬪爭より政治鬪爭へと進出して、一步々々健實な步みを續けて來た。謂ふ迄もなく、無產政黨の背後には、勞働組合の如き、農民組合の如き經濟鬪爭の機關があつて、政治鬪爭と經濟鬪爭は、あだかも車の兩輪の如き重要な關係をもつて發展して來た。從來我國における勞働運動は其の發達が割合に速かなるに反して、農民運動の發達は速かで無かつた。農民運動は勞働運動に比して其の發達過程において非常なる困難を伴ひ革命後のロシヤも常に農民問題に惱まされつゝある。都市における勞働問題は、今日の社會が資本主義の社會であり其の特徵として機械力を應用して大規模の生產を成すがために、資本家と勞働者の間に劃然たる階級があり、一工場一會社の如き比較的狹き範圍に密集して利害を共にする他の勞働者と接觸し、勞働そのものによつて協同動作、團體訓練、集團主義等を常に教へられてゐる。斯る諸種の關係によつて勞働運動が比較的容易に發展する事が出來、亦將來においても發展して行くであらうが是に反して、農民運動は、農業そのものが封建時代と何等變化なく資本主義社會に移された。資本主義の一般原則たる自由契約によつて以前の領主と農奴の關係を現在の如き地主小作の關係に變化したのみである。而して現在の農民は、地主との契約に基いて土地を借り受けそれに自己の資本(種子農具肥料の如き)を投じ、自己の勞働を之れに加へて穀物の生產をする一の小企業家かの如くなつた。小作人は自然によつて支配される豐凶に對する企業の危險を負はされるばかりでなく、農商務省の調査(大正九年度)によれば、田一町二段、畑三段を耕作する小作人の一ケ年の收支は四十四圓の缺損となつてゐる。これは我々の立場から謂ふので無くして、地主階級を擁護せんとする農商務省の調査せしものであつて、何等誇張せしものではない。封建時代の農奴は最低限度の生活の保證があつたが現在の農民は自由契約によつて、この保證すら無くなつて終つた。斯る窮地にある農民が德川時代の百姓一揆の傳統を受けて、明治年間にも屢々地主と戰ひ續けて來たが、それはほんの一時的な、パラ〱な戰ひで大抵敗戰に終つて居たのである。農民の經濟的基礎が完全に資本主義化されないため、廣大なる地域に散在して都市勞働者の如く團結の機會に乏しく共同動作、團體訓練の機會が尠かつたために地主に對しても團體として抗議する事が困難であつたが、そればかりでなく、都市の勞働者の如く階級對立と勞働搾取の現象が鮮明でなかつた事が最大原因であつた。以前の農民運動は、市價關係に依る自然的變動のために起る不景氣によつて、地主階級が自己の經濟的苦衷を救濟するために起されてゐた。であるから彼等の所謂農民運動は、市價の回復と共に其の姿を消して行く程度のものに過ぎなかつた。そして自己經濟の維持に努める傍ら小作人の反抗は封建的主從觀念を強調して抑壓してゐたのであつた。地主階級によつて起された農民運動は一般貧農階級の利益も共に代表するが如く裝つて、社會を欺瞞する事に一時成功したものである。それがため、他の共通利害關係の小作人と接觸する機會の乏しい、亦教育機關、交通機關の不備な明治時代の農民は、自己の社會的な地位を認識して地主に反抗する事が出來なかつた。然しながら、我國は耕地面積の狹隘なるに反して農民は全國民の五割以上に達し都市商工業の發達と共に、常に壓迫されて不利な立場にあり、自作農すら急激に小作農の中に沒落しつゝあり、小作農の窮乏は、一般農民の意識すると意識せざるに係はらず深刻となつて行つた。歐洲戰爭前後の好景氣の反動として、大正九年より十年への急激なる經濟的恐慌の襲來によつて、都市勞働者が猛烈なる運動を開始し戰鬪的に成つて來た其の影響を受けて、農民運動も、從來主從的觀念によつて結ばれて居た封建的思想を脫して小作と地主の關係は單なる契約によつて結ばれたものであつて、そこに何等主從的關係のない事を認識し明瞭と階級的意識に目覺て、農民組合を組織したのは、最近大正十一年であつた。それ以後は、農民運動も一時的であつたのが永續的となり、經濟鬪爭のみであつたのが社會的地位を認識したために階級鬪爭に變化し、散在して居た農民が結合して、其の運動も尖鋭化して來た。農民運動が發展すると共に以

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

前はバラ〱であつた地主階級も地主協會土地會社の如きに大同團結して、其の鬪爭力も著るしく高め、加ふるに彼等は政治的、經濟的に優位にあるを利用して、最近の如く立入禁止、立毛差押へ、財產差押への如き、直接行動によつて極度に壓迫して來た。小作人が生存權を奪れる致命的な鬪爭に對して、無產階級の唯一の武器たる大衆を動員して鬪爭を開始すれば、官憲の挑戰的彈壓によつて、ともすれば、治安維持法、騒擾事件等のために犠牲になるのである。斯くの如く現在の農民運動は最も困難なる事情の下に置かれてゐるが最近に到つては、小作爭議の調停法、自作農創定案の如き欺瞞政策を持つて搦手より、直接間接に魔の手を伸しつゝある。小作爭議調停法は法律によつて共の會議の内容を發表する事を禁ぜられてこれを委らかにする事は出來ないが、自作農創定案の如きは、農民組合を破壞せんとするものであり、地主の土地賣逃策であつて、地主に代つて政府が小作料を利子の形式によつて強制的に取り上げ様とするものである。この自作農創定案を解剖すれば、小作人は屢々述べた如く、少しの餘裕のない事は明かであるが、政府がこれを自作農にするには何等かの方法によつて資金を融通しなくてはならないが、それは普通の金融界よりも最も低利でなくてはならないが政府の低利資金にも限りがあり充分の融通の出來樣筈がなくそれのみか年々亡び行く自作農の償ひすら出來ないのである。現在閣議において山本農相が強調し問題と成つてゐる、債券發行案の如きも、債券發行して、一時の金融が出來自作農を創設したと假定して小作人は年々償還する金と、國庫の補助で元利は償却出來るであらうがこれはたゞ地主階級の没落を救濟するより外何者もない。現在我國の農地の價格が低下する傾向があるために、これに恐怖せる地主階級が土地國有論を強調して、未だ低下せざるうちに國家に賣り付け、商工業方面に逃れんとしてゐる。この秋に當つて政府は自作農案を持出して小作人に賣付け、一方に地主階級を擁護し、一方小作人を欺瞞して、益々窮地に入れんとする最も陰險惡辣の手段に外ならない。小作人は形式上は自作農となり得るが賃貸においては從來の小作料を年賦金に變化したに過ぎない斯くの如く種々なる手段に依つて、或は陰險なる方法により、亦は露骨なる手段によつて、陰に陽に彈壓の下にあつて現在の農民運動は小作料の永久輕減、耕作權の確立等のスローガンによつて鬪爭を續けて來た。資本主義の攻勢が進行するに伴ふ金融恐慌、それと共に政府が民衆の利益を蹂躪して小數の資本家を救濟したのに對して、全民衆の反抗が勃然として起つて、昨年度上半期の小作爭議七百件に比し、今年の上半期は千件を突破してゐるのである。農民運動が今や經濟鬪爭より政治鬪爭へと轉換して行く事の必要なる事は斯る機會のある毎に教へられて來る。今秋の府縣會議員の選舉においても多數の人口を占むる農民が比較的小數なる勞働者よりも、當選率の尠かつた事は、政治的自覺の乏しい事を證明するものではなからうか。農民運動が發展すると共に、都市勞働運動の如く、無產階級内部において、分烈抗爭が激烈となる事は、無產階級運動の指導者たるものゝ最も反省を要する事である。理論鬪爭による對立鬪爭は無產階級の正しき發展の上から必要であらうが現在の無產階級の分裂の最大なる原因をなすものは、理論の對立闘爭以外に、少數幹部の感情に捉はれて、彼等の專制的に支配する傾向が頗る濃厚に現れてゐる。無產大衆は何等斯様に分烈する理由がない。大衆が完全に統制權を得るか、少數幹部の反省を促すかの外、現在の分烈を防ぐ事は難かしいであらう。彼等は亦、餘りに組合の利害のみに拘泥して、全民衆の利害を代表する觀念の乏しい島國根性に捉はれ勝ちな事が最も現在の運動の發達を阻害しつゝある。若き農民運動は、勞働運動より學ぶ事は尠くないが、其の弊風より脱して、日常の利害を契機として未組織農民を組織化する事が現在に於ける最も急務ではなからうか。（一九二七・一二・一三）

〜〜〜〜〜〜

（二十九頁より續く）

の×××××を最も雄辯に物語つてゐるものである。

◇

支那は八十餘年來國際帝國主義の壓迫下にありて輾轉呻吟の末遂に奮起した。支那の工人階級は既に洪大の組織と勇敢なる氣力とを有し、絶大な犠牲的精神を以て幾度か闘起を繰返し、國際帝國主義者と戰鬪し、支那に於ける民衆の最大多數を占むる農民及び一般知識分子たる中小商人並に武裝兵士を喚起し、一個の堅實なる聯合戰線を形成して全世界を震驗せしむるに足國民革命を演出するに至つた。歐洲大戰以後の國際帝國主義は恐怖時期より暫定時期に進展したるが如し。然らさりき此の暫定的平穩時代は既に支那國民革命の爲めに打破せられたのである。

今日以後に於いて支那に於ける革命運動と勞働運動は、支那及び其他の諸國に對し如何なる作用を働きかけるであらうか？一九二七一一一三稿

進め殘本に就いて

宣傳用として一部一錢で賣却する。但し何月號を送れと指定されない事、なるべく御希望に副ふ樣にはするが本部に定一任されたし。

〜〜〜〜〜〜

マルクス寫眞集

一部五十錢

評議會幹部諸氏に質す

工藤勝市

◆

私は評議會、勞農黨幹部諸氏に質するに當つて前以つて御斷りして置く。私は決して評議會、勞農黨を排撃するものではない否むしろ、全無產階級を標傍して立てるものの中、最も信頼すべきものと信じて居る事は敢て人後に落ちない。それだけに評議會の幹部諸氏に質したいのである。

去月、滋賀縣能登川に日本カタン株會社の爭議があつた。此爭議は初め、京都評議會應援の下に一週間許り、戰つて來た。然るに突然評議會は、縣議立候補の爲め、多忙の理由を以て引揚げて終つた。――もつとも爭議の起りし當初より忌避してゐたが――そして一顧だも與へず對岸の火事の態度をとつた。何と云ふ無暴か、此爭議には京都評議會が死を賭しても戰ふべき特殊な責任任務がある事は滋賀縣無產大衆の知る事實である。然るに何んぞ此盲目的行爲は。馘首されたる四名の失業者、否、滋賀縣全勞働者、否、全日本の勞働者大衆は今、何を要求して居るか。果して一、二の縣會議員か？然らず！ 斷じて然らず政治行動の發展は經濟行動の發展あつてこそ基礎づけられる。經濟行動を忘却しては無產階級の政治運動は無意味であり、無力である。

評議會が常に主張せる所謂「組合運動の目的」、「行爲の一般方針」「組合組織の目標」は今何處の宙を彷徨しつゝあるか？果して爭議――然かも自ら產ませた――を犠牲にして政治運動――幹部諸氏は議會政策でないと主張せられるが明らかに議會政策をとつてゐる――に狂奔するのが日本勞働評議會の組合運動の目的であり、行動の一般方針であり、組合組織の原則であり、組合組織の目標であらうか、然りとせばそれは恐るべき反動的、裏切組合と云はねばならぬ、勞働者大衆の僞瞞者と云はねばならぬ。

若し勞働者大衆が目前の生活の改善を要求して居るならば、吾々の當面の運動はこの大衆の現實要求を基としなければならぬ。爭議の結果如何は現今無產階級運動の發展過程として重要觀しても要求通りの結果を擧げ得るものではない――×××××××、吾々は飽く迄結果を當面目標として、暴露戰術（資本主義社會の組織を全面的に暴露する）により大衆を動員すべきである。吾々の運動は大衆の現實の要求の上に立ち、大衆の現實の要求から力を得て來なければならぬ。大衆の行動を離れては革命的行動はない。大衆の現實の要求を離れては大衆の運動はあり得ない。

◆

過日の縣議戰は全よいチャンスであつた。然し、大衆の現實の要求を離れた滋賀縣の評議會、勞農黨の政治行動は明らかに議會政策に墮して大衆を裏切つた。又全國到る處にもその事實が暴露されて居る。

勞農黨々首大山郁夫氏が云はれた如く、「わが勞農黨の鬪爭態度は既成諸政黨やエセ無產政黨やのそれを區別してゐるところの最も主要なる眼じしるは、前者が日常政治鬪爭を主位においてゐるに反して、後者がいづれも意識的か無意識的か、議會中心主義選擧第一主義に墮してゐると云ふ一點である」（改造十月號所載）果して、此言を信ず黨にのみ使用し得べきものであらうか、私は勞農黨、評議會は方向を誤つた。大衆を僞瞞したと叫ばずには居られない。又、「わが勞農黨は、黨がこれまで行つて來、また現に行つてゐるところの、民衆の實生活上の切實なる諸要求――社會的經濟的諸々の――反映する一切の鬪爭を政治的自由獲得鬪爭に合流集中せしめるのだ。そこに黨の當面の鬪爭目標が認められ得る」改造十月號大山郁夫氏記載）以上の二文が果して前述の事實に合致するであらうか。何と云ふ矛盾か？ 何と云ふ僞瞞か？

私は多くの事實を知つて居る――僞瞞的な非左翼的な政治行動を。然し列擧するに忍びないから玆に反省を促して止筆に急がう。

抑々無產階級運動には、先づ吾々は自己の思想を純化し、無產階級運動の最後の目標を見極めなければならぬ、而して、目標をはつきり認めつゝ無產階級の大衆が、現に何を要求しつゝあるかを的確に見なければならぬ。そして吾々の運動は大衆の當面の要求に立脚しなければならぬ。地方の經濟鬪爭を無視するが如きは無產階級運動の眞意を忘却せるも甚しきものといはねばならぬ。無產大衆個々の經濟的立場を思考せざる無產階級運動は裏切行爲の外、何物でもない。

評議會幹部諸氏よ？ 此一事實を諸氏は何んと見る？

最後に評議會、勞農黨幹部諸氏に元來の主張せる、所謂左翼觀念なるものは何んであるか？ 又諸氏の無產階級運動の目標は何んであるか？ 諸氏の政治運動の最高目標は何んであるかを聞ふて止筆する。

（十月十日）

北越の同志に送る

上田絢子

おゝ友よ、北の國の同志よ、
搾取の中に生きたる友よ、
血にまみれた冷たい
鞭の跡にしひたげられる友よ、
晩秋がおとずれました、
こんなに早くおとずれました、
北國の冬はどんなに寒いでせう
暖い南の國さへ
夜になると戸外に風がおとずれますのに、

× × ×

孤獨と寂寥で侘びしい風が
昨夜もコスモスを庭に打ちつけて、
一晩中外で狂ひました
私の幼い妹は母のやせた乳房にかじりつき、
弟は薄い蒲團に息をひそめ、
風を恐れます。
嗚ーもうこんなに寒くなつたのに、
私達は未だ何の用意もありません
友よ、同志よ、私達は何時何時
闘はれるのでせう。

讀者諸君へ

諸君の働いてゐる工場から、坑山から、農村から、生活の歌を送れ、掲載の分は「進め」メダルを贈る、進めメダルは勞農兵團結を示せるものである。

締切毎月九日

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

勞働運動講座

國際勞働運動(三)

淺野研眞

第四章 第二インタナショナル

一、序說

第一インタナショナルは、上述の如くに、消々してしまつたが、その失敗の原因は、主として、未だ國際的運動のための經濟的基礎が充分に出來上つてゐなかつたことに存する。インタナショナルが眞に力強きものとなるためには、各國の經濟が國際的となり、各國の勞働階級が共通の經濟的地位、從つて共通の利害關係を持つことが必要だ。

しかるに、第一インタナショナルの當時は、未だ、かかる經濟的基礎が、極めて幼稚であつたのだ。だが、その後に於ける資本主義の發達は、實に目覺しきものがあつた。そして世界の何處に於ても、資本の搾取に惱むプロレタリアートの大衆が出現して來たそして彼等には、共通の見方が認識さるるに至り、共通の階級的意識が次第に普及するに至つた。かくて一度び消え失せたインタナショナルの運動は、一八八九年に至り、前述せる如く、前よりも、より大規模なものとして生れ返つて來たのであつた。

そして此の運動は、前者を第一インタナショナルと云ふに對して、第二インタナショナルと呼ばるるところのものである。尚ほ此の第二インタナショナルには、また『國際社會主義黨』として自ら呼ばれたものであつて、第一インタナショナルの『國際勞働者同盟』とは、實際には、いささか別の名稱をとつてゐた。

この新らしいインタナショナルは、前述の一八八九年の巴里に於ける講話會議を第一回大會として、一九一四年の世話大戰の勃發まで、實質的に國際勞働運動の一大中心であつた。

以下吾々は、順次その諸大會を追跡することによつて、第二インタナショナルの史的發展を見るであらう。

二、第一回大會

(一八八九年、巴里)

一八八九年に至り、インタナショナルは、大々的に復活した。この年、大會が巴里に開かれた。丁度、この年は、フランス大革命の百年祭に當つてゐた。

我々は此の新インタナショナルの生誕を說くために、その先驅としての一八八八年のロンドン會議を瞥見するの要がある。

英國の地は、嘗てマルクスの避難場であつたのと、産業革命の激甚なのとで、勞働階級をして盛んに團結へと走らしめた。しかし英國人は實際家的な性質を多分に持つてゐるので、往々因循姑息に流れるの弊を持つてゐた。だから先年の巴里コムミユンに於けるフランス勞働者の失敗は、少からず彼等英國人を考へさしめた。そしてインタナショナルが共に贊同の宣言(マルクス執筆)を與へたとき、彼等は又、少からず恐怖心を起さしめられた。ために彼等は次第にインタナショナルを遠ざかり、改良主義的運動に滿足するに至つたものである。

だから、一八八八年九月、勞働組合選出代議士の斡旋で以て、ロンドンに萬國勞働者大會を開くに當り、勞働團體の直接關係者以外は參會し得すと規定した。これはドイツ社會黨の首領の來會を、體よく斷つたものであつた。獨、墺、瑞西、米の諸國は、その代表者を送らなかつたが、皆で百十名の代表者が集會した。そして此時、次の大會を巴里に翌一八八九年に開くことが定められた。これ即ち巴里大會の由來である。

しかし吾々は、巴里大會に就て語る前に、もう一つ、當時に於けるフランスの社會黨の狀態を見て置かねばならない。即ち當時フランスには、マルクス派と可能派との二派が對立してゐたが、信仰として共にマルクス主義を奉じてゐた。ただし、マルクス派はより革命的であつた。

しかるに、一八八九年に至り、可能派は昨年のロンドン會議の決議によつて、巴里に大會を開かうと、その準備をしてゐた。之を聞いた諸國のマルクス派は、直ちに和蘭のヘーグに集會して、可能派の大會に對する態度を講じた。此の會議には、獨のベーベル及リープクネヒト、佛のラフアルグ、白のアンシール、ヴオルテル、和のクロール、ニウエンヒユイス、等々が集つた。決議の結果は、マルクス派は可能派大會に加入を申込み、若し其が納れられなかつた場合には、別に大會を巴里を開くこととした。

交渉の結果は、果して可能派は、マルクス派の入會を拒絶して、六月十五日にその大會を開き、マルクス派は一日を先んじて十四日に大會を催した。而して第二インタナショナルは、正しく此の大會を以て創立第一回大會とするものである。

此の第二インタナショナルの創立大會には、二十餘ケ國の代表者三百八十一名の多數が參集したと云はれてゐる。第一インタの諸會議に於ては大抵五六十名前後の代表者が參集したのみで、その代表す

る所も僅々十ケ國以内であつた。しかるに此の巴里に於ける是の如き代表の多數を算するに至つたことは、全くインタ史上の劃期的現象だつた。

この大會は、前述の如く六月十四日に開かれ、同月廿一日まで續いた。そして其の決議は、萬國勞働者保護法案に關するものが多かつた。

尚ほ其等の決議を力あらしむるため、實行方法を講じ、『一八九〇年五月一日、各國社會黨團體は、八時間勞働のために、大示威運動を行ふべし』との重要決議をした。かくて爾來、五月一日は、萬國勞働者の一大紀念日となり今日メーデーとして盛んに行はれてゐる。

三、第二回大會

（一八九一年、ブルッセル）

マルクス派巴里大會の決議によつて、第二回大會は、一八九一年八月、白耳義ブラッセルに開催され、集まるもの三百六十九名を算した。第一回の巴里會議を以て、インタを復活せるものとするならば、この第二回のブラッセル大會は、その團結をして初めて組織立てたものと云はねばならぬ。從つて其の決議の結果も組織の方面に關してであつた。そして其のために、八月廿一日には、緊要な決議をなしてゐる。

尚ほ和蘭のドメラ・ニウエンヒュイスは『國際戰爭が始つた場合には、兩交戰國の勞働者は、總ストライキを以て動員の命に應ずべきである』との提案をしたが、此の案は通過するに至らず、僅かに國際戰爭に反對するとの決議のみで終つた。

四、第三回大會

（一八九三年、チューリヒ）

第三回大會は一八九三年チューリヒに開かれた、先にマルクス派から離れてゐた英國勞働組合團も、やうやく可能派を去つて、再びマルクス派に投ずるに至つた。マルクスは既に十年昔の一八八三年に亡くなつてゐたが、この大會に於ては、マルクスの半身像に向つて、六ケ國の國語を以て『萬國の勞働者よ、團結せよ！』と叫び、次いで議事に入つた。この時、エンゲルスは、その老體を提げてロンドンより來會し、その終生の盟友たりしマルクスの今日の勝利の結實を祝した。マルクス死後のエンゲルスは、實際總ての國の勞働運動の論客として、忠言者として、極めて活動的な、二人分の役割を演じてゐた。不思議な語學力を以て、各國の勞働運動を語り、且つ研究してゐた（リヤザノフ）。

來會者は四百四十名の多數に上つた。

この大會では、先きのブルッセル會議に續いて、再び組織問題が議せられた。

五、第四回大會

（一八九六年、ロンドン）

第四回大會は、一八九六年七月二十七日を以て、ロンドンに開かれた。會場を此所に決めたのは、近來漸くマルクス派社會主義に接近しつゝあつた英國の勞働團體を合同せしめやうとの目的からであつた。開會に際して、獨逸のリープクネヒト、墺太利のアドレル、英國のアヴエリング、エリノール・マルクス、瑞西のグロイリッヒ、シング等は演壇に立つて握手し、會衆は、その間、勞働歌を合唱し、勞働者の萬國的結合の意を表した。

この大會に上提された議題は、次の如きものであつた。

一、凡て成年に達したる者は選擧權を得べきこと
二、勞働自治權
三、婦人解放
四、殖民政策に反對すべきこと
五、十六歳までの少年に義務教育を課すべきこと
六、大學を解放し聽講を無料とすること
七、十八歳以下の少年勞働者に夜學を禁ずること
八、土地國有
九、小學校生徒に晝食を與ふること
一〇、常備軍を全廢し民兵を以て之に代ふること
十一、次期大會を一八九九年に獨逸に開くか、又は一九〇〇年にフランスに開くべきこと

尚ほ、この大會に於ては、農民の團結がアチテートされた。

六、第五回大會

（一九〇〇年、巴里）

第五回大會は、一九〇〇年巴里に於て開かれた。この年巴里に於ては、丁度、萬國大博覧會が開かれた。會期は九月廿三日から同廿八日に亙つてであつた。代表者は七八〇名の多數で、これ迄にその比を見ない。

この大會の重要議事は、次の如くであつた。

一、萬國社會黨の團結をして更に强固ならしむる方法
二、勞働時間と最低賃金に就て萬國的規約を設くること
三、勞働者の解放、社會的階級としての無產階級の團結を組織すること
四、常備軍の全廢、國際平和の建設
五、殖民政策
六、海上勞働者の團結組織
七、普通選擧、直接立法
八、ブルジョアの諸政黨との聯合
九、五月一日の示威運動
十、トラスト問題
十一、總ストライキ

尚ほこの大會の最終日たる九月廿八日には、盛大なる巴里コムミュン祭が行はれた。

七、第六回大會

（一九〇四年、アムステルダム）

第六回大會は、一九〇四年（明治卅七年）八月十四日から同廿日にかけて、和蘭のアムステルダムのケプウ音樂堂に於て開かれた。この大會に出席した各國の代表者は、その數、實に一千名を超えた。

そして其內、三十九名だけが委員として指定された。會長には、和蘭のファン・コールが擧げられ、副會長にはロシアのプレハノフと日本の片山潜とが擧げられた。開會の劈頭に於て、會長は先づ一場の演說をなし、次いで兩副會長は日露兩社會黨を代表して演壇に並び立ち、親交の握手をし、それぞれ挨拶の辭を述べて、帝國主義的戰爭に反對した。そして日露戰爭反對案が此の大會を通過した。

八、第七回大會

（一九〇七年、スットガルト）

第七回大會は、一九〇七年獨逸のスットガルトに於て開かれた。本大會には、二十七ケ國の代表者八八四名の多數が出席した。

本大會の重要議事は、本會議の選擧方法を變更したことである。即ち今迄は各國二票づつを持つてゐた爲め、少數代表者より送らない弱少國と多數代表者を送る强大國とは同權だつたのである。然るに此の大會では、その方法を改正して、各國はその重要さに於て投票數を得ることにされた。そしてその割合は、獨、墺、佛、英、露の各國は二十票、伊太利は十五票、以下漸次下つて、多くの小國は大低四票で、ルクセンブルグの二票が最少であつた。そして一票につき、代表者六名づつを送り得ると云ふのであつた。此の改正は、議事の實現の上に、多大の影響を能ふるものとなつた。

九、第八回大會

（一九一〇年、コペンハーゲン）

第八回大會は一九一〇年、コペンハーゲンに開かれ、二十三ケ國の代表八九六名が參集した。

この大會では、討議を次の五つの委員會に分割した。

一、協同組合と社會主義との關係
二、勞働組合
三、國際仲裁と武裝解除
四、失業立法
五、總解決

十、バーゼルの臨時大會

（一九一二年）

一九一二年十一月、特別會議が急遽バーゼルに召集された。それは當時、切迫しつつあつたバルカン戰爭に列强が參加せんとするを抗議せんがためであつた。此の會議は、僅か數週間前に豫告されたのみであつたが、五五五名の代表者が參加した。

十一月廿四日の日曜日に、一大示威運動が、大會堂とその外側の辻で行はれた。此の一日は、充分に、勞働階級を喚起し、資本主義的帝國主義權力と、勞働者の國際的連帶とを衝突せしめんとするに贊同した。各國議會の反對的運動と、凡ゆる方法での戰爭反對運動が行はれた。この平和のための盛んな示威運動の效果は、勿論大きなものであつた。しかし實際には戰爭は發しなかつた。

世界大戰前の數ケ年間に於ては、ブルツセルの萬國社會黨事務局の活動は、急激に增進されてゐた。各國支部との通信は頻繁となり、數ケ月每に、エミール・ヴァンデルベルトを會長として、集會が催されてゐた。

十一、大戰の勃發とその影響

一九一四年七月、世界大戰が勃發した。いよ〳〵大戰が現實のものとなつたとき、インタの運命も怪しくなり、一九一四年ウインに開催と決定せられてゐた第九回大會は、全く中止となつてしまつた。

ブルツセル局も、ドイツのベルギー侵掠のために破壞されてしまひ、交戰國の社會主義者、勞働組合主義者間の通信も、今は不便となつてしまつた。

ブルツセル局の幹部連は、大低ロンドンに亡命し、中立國たるスイスやスエーデンが中心となつて活動を續けた。

また聯合國際委員會の略式協議會は、多少、ロンドン及び其他の所で開かれてゐた。中立諸國中、特にスエーデンの首都ストツクホルムに於ては、ドイツ社會黨代表者及びその同盟者が、中立國の其極の人々と協議會を開いた。

しかし結局、第二インタは一九一四年の大戰勃發を以てその眞生命を終つたものと見ねばならない。

ケレンスキー政府がロシアに成立した時、インタの大會をストツクホルムに開催しやうとした。しかし其は彼の腹黑い利己的政策に出づるものとして、各國の贊同を得なかつた。その中、ケレンスキー政府は、レニン等によるボルシェビイキに取つて代られた。

プロレタリアの最初の國土ソビエット・ロシアは、今やインタの母國となつた。一九一九年三月、レニンの主唱によつて新らしいインタは、新生の都モスクワに於て成立するに至つた。これ所謂第三インタナショナルである。されば、吾々も章を改めて、この第三インタを見るであらう。

演說會に就て

吾々の演說會は政友會や民政黨の樣な金持ちの演說會とは違ふから、入場料をとつても決して恥ではない。その集めた金で發展するのだから、決して不正ではないのである。

本社の方に金があれば、いゝのだが苦しいのだから、やつぱり汽車の實費だけは出して貰はねばならない。

演說日は、本部の方の都合でなるべく每月一日から十日迄が一番いゝ樣に思ふ。

淺野研眞要譯
哲學の貧困
〇三錢　進め社

支那に於ける革命運動と勞働運動

日堂則義

◇資本主義に依つて世界を統治するの時期に在りては國際帝國主義の權威伸張し、横暴にもプロレタリア階級を搾取し弱小民族を侵略するに至つた。併し乍ら結果より觀れば却てプロレタリア階級の力量を形成し弱小民族の覺醒を促進せるのみならず、更に西方のプロレタリア階級と東方弱小民族との××大聯合戰線を形成し、彼等は相提携して共同の敵たる帝國主義に向つて進攻を始めた。斯かる時期に於いて單一の世界は始めて××××××との兩大城壘を嚴示し、××××××との闘爭は愈々激烈を加へるに至つた。

◇支那革命は世界××の一部分である。また支那革命は××××の中心を爲ものである

吾人は五卅運動以後に於ける支那革命の世界に處する地位及び××××を標榜する、プロレタリア階級の同情を否認せざれば根本的に支那革命の國際化を認識すべきである。而して支那革命の主體を成す國民黨が故總理孫文の明示したる遺訓と、××××の導師ともいふべきレーニンの『被壓迫民族同志の聯合』及びマルクスの『萬國の無產者團結せよ』を遵守して、凡有革命的勢力を合併し、革命的行動を統一し現在に至つたと云ふ此の事實をも亦承認しなければならぬ。即ち國民黨の北伐軍事進展より（武漢首領）第二次北伐軍進展裡に在りて、支那革命民衆が如何に好く國民黨の依在を認識し、而もその指導下に統一され、革命政府の政策一切を擁護したかに就いて觀ても充分に判るのである。例せば最近の外交政策經濟政策等に對しては一致の力量及び行動を發揚して敵人と作戰し、一面國際的××運動及び××勢力とも直接の關係を行し、且つ又實際的援助をも受けつゝ來つたのである。

◇

併し乍ら支那革命勢力の進展以來各國帝國主義の魔手は切りに支那に向つて進行し、幾多の軍艦を派遣して××遂行の妨害を盛に試みた。是れ××の進展裡に在つて洵に痛嘆すべき一大難事であつた。若し支那が國際上積極的援助を得ざれば其の××は必ず失敗に終るべく、而して若し國際上の援助を求めんとせば、必ずや全世界のプロレタリアートに之れを求めなければならぬ。蓋し彼等はプロレタリアートを彼等被壓迫民族の友軍と認むるからである。支那の革命勢力が長江流域に發展して以來、列國帝國主義者は競ふて無數の軍艦を支那革命の中心地たる武漢に派して示威運動を試みた。同時に日英米佛各帝國主義國家內に於ける無數の勞働者は『對支干涉反對大會』を組織して之れに反對した。又全世界のプロレタリアは罷工を以て對支出兵の反對宣言を發表した。是れ××運動と勞働運動と題する所以である。先に支那革命は勞働運動を外にしては成立しない。革命は縱の問題であり勞働運動は横の問題である。斯くして支那の國民革命は縱横に飛蹶することが出來るのである。去る五月武漢政府に依つて召集せられ、漢口に於いて開かれた太平洋勞働會議には、ロシアよりは赤色勞働組合インターナショナル幹事長ロゾフスキー外五名、英國よりは左翼派組合委員長トムソン外三名、支那から汪兆銘外十名、米國からは二名其の他印度シヤム等太平洋沿岸に於けるプロレタリアの代表は袖を連ねて參加し、偉大なる勞働大會を開いて支那革命運動の遂行及び共產主義宣傳方面に就き研究討議を爲し各種の宣言を發表した。此の勞働大會は支那革命に對し偉大なる貢獻を爲したと同時に、太平洋沿岸に於けるプロレタリアの××行動に對し統一せる指導を與へた。換言すれば全世界の無產者及び被壓迫民族が、從來に比し密接に結合し更にその行動を一致せしめた。彼等は十分積極的に世界××の中心たる支那革命を援助した。支那の國民革命は明かに非資本主義の道程を過つてゐる。故に彼等眼前の工作は一律に資本帝國主義に向つて進行を爲すにあり、彼等の目的が同一なる以上彼等の行動も亦當然一致すべきである。

◇

支那の工人階級は二七事件より五卅運動に至るまでの內既に政治的軌道に踏み込み、殊に五卅事件に亞いで粵港の罷工事件起り、堅持一ケ年の久しきに亙りたる結果、大多數の農民及び革命的智識分子進歩的中小商人、並に覺悟ある兵士等を喚起し、國際帝國主義就中、英帝國主義の侵略高壓下にありて漸次組織し、發育し且つ堅牢なる聯合戰線を建立し、一致して軍閥及び帝國主義に反對し、國民革命的軍事行動を實行するに至つた。同時に革命的勞働者は一個の領導的地位に立つを以て能く現下の如き成功を博し、列國帝國主義者をして驚駭の餘りに狂發せしめた。但し此の緊急の時代に於いて一つの重大なる變化が起つた。即ち一面帝國主義者は猥りに誣言を作り、各國の民衆を瞞着し軍艦を亂派して威嚇し、他面支那の大資產階級は國民革命

の聯合戰線を破壞、反革命の道程を辿りて帝國主義者、軍閥と妥協し工人及び農民を摧殘し、國民黨並に國民政府を破壞するに至つた。が併し此の種の分化作用は革命過程中に於いて有得べきこと柄である。支那の工人階級は之れに依つて彼等の責任を加重し、且つ彼等は歷史的敎訓を受けたる結果、堅牢なる團結を增すべく、勇敢なる革命精神を鼓舞し、進んで支那の農民、知識分子、中小商人等を領導し一意以て國民革命の完成に精進したのである。

◇

知るべし！　支那の國民革命はたゞ單なる支那問題に非ずして一個の世界的問題である。蓋し支那の國民革命が成功すれば世界の資本主義制度××××××××××××。各帝國主義者間には若干利害の衝突あるも、表面上彼等は尙ほ無理矢理に一致の步調を執りて支那革命に對抗しつゝあるのである。故に支那の工人階級が單獨に彼等と作戰すれば自然不成功に終るべく、且つ支那の農民、中小商人、知識分子が一致結合すれども尙ほ足らざるの憾みなしとせず、換言すれば勝利の保障は國際工人の援助を得るにある。過去及び現在に於て既に蘇俄及び英米日佛各帝國主義的國家等の援助ありたるが、更に今日以後に於ては赤色職工國際及び第三國際の援助あるべきに依り、彼等は尠からざる便宜利益を得るのみならず勝利の鍵をもやがては把握し得べきも、未だ統一集中的力量を有してゐない。故に先づ彼等は全世界の工人階級の團結に先立ち東方に於いて一個の統一せる集中的力量を形成すべきである。從つて前記太平洋勞働會議の任務は各帝國主義者の太平洋に於ける戰爭開始を豫防し、東方工人一切の壓迫及び搾取を解除し、東方に於ける殖民地的又は半殖民地的民族をして、東方工人と一致奮闘の下に自由平等を得せしむるにあるのである。然る時、支那の國民革命及び勞働運動も亦自然最後の勝利を得るに至るであらう。

◇

世界資本主義が日を逐ふて動搖し國際均衡勢力が破壞を開始し、歷然として第二の世界大戰を惹起する可能性のある今日に於て、太平洋上の風雲は既に險惡に趨り、我が東方被搾取階級及び被壓迫民族の運命は前途洵に悲慘なものがある、是れに對する唯一の方策は彼等の覺醒と對抗とである。支那は五卅運動以後、反帝國主義的民族解放運動の怨猜は大多數の農工群衆の增殖に因り、日を逐ふて增大せる其の結果、帝國主義者の東方に於ける經濟的侵略の基礎を動搖せしめ、世界××をして進步の發展を爲さしめた。就中北伐××勝利の時代に於いて、實際上の支那國民革命の領導權は、無産階級及び其の友軍に歸し、資産階級の革命背反の基礎を爲した。右は一面、彼等が革命力量の驚くべき發展を證明すると同時に他面資本主義者の殘酷なる手段を吾人に如實に訴ふるものである。彼等は決して過去に於ける歐洲大戰に招徠の理由及び日英米各帝國主義國家の東方に於ける對弱小民族の個別的侵略政策を忘れてはならぬ。彼等は一致して堅固なる聯合戰線を作り、一步進んで西方の被壓迫階級と提攜し、此の第二次的世界大戰を豫防し、且つ彼等は彼等の力量を用ひ根本的に資本主義的城壘を推翻すべきである。彼等は之れを機會に今後の共同的爭鬪策略を確定し、嚴密に帝國主義者の××陰謀を防止し、東方搾取階級及び被壓迫民族をして『打倒帝國主義』口號の下に凡ての戰線を整頓せしむべきである。

◇

各國帝國主義者は孰れも戰爭を×××××××である。是等の徒は太平洋沿岸に於いて原料を探集し、市場を獲得するが爲めに干戈を以て相見ゆるの準備を決して忘れぬ。之れに處する唯一の策略とも稱すべきものは、革命的民衆の統一せる力量を用ひて彼等を擊ち、彼等に一個の致命的重傷を負はしめ、××××××××××××××××××××××××××。

◇

歐洲戰爭前に於ける世界資本主義の安定は否定すべからざる事なりしが、戰後の形勢は各帝國主義國家間の經濟的均衡全く幻想だに有り得べからざるに至り、一九一七年ロシア十月革命の成功は無産階級的國家を建立し、根本的に帝國主義者の構成を覆失せしめるに至つた。歐洲にありては過去二年來の革命思想澎湃として起り、明かに支那國民革命の成功より、世界××の工作を完成し、帝國主義の××を促進するの可能性を斷示した。東方各被壓迫民族――例せば印度、ハワイ、モロツコ菲の如き民族解放運動は死力と鮮血とを以て各帝國主義者に抵抗しつゝあるのである。斯くの如く帝國主義者の運命は日に衰退すれど、彼等の弱小民族を侵略せんとする野心は昨日に比し更に甚だしいものがある。彼等は知る、東方は唯一の市場にして東方民族の脊血は彼等の生命を保持するに唯一にして絶對必要の泉源なるを。彼等は思ふ、金錢を以て東方民族の革命運動を鎭壓せざれば不可なり、全力を注ぎて東方の市場を獨得せざれば不可なりと。最近支那革命の半成は終に列强帝國主義者の共同的嫉視を招いだ。即ち彼等は多數の軍艦を支那に派遣し極力、挑發離間國際帝國主義の聯合進攻を促進し依つて以て國民革命政府を封鎖し、東方民族に對する根本的摧殘の先盤を爲した。是等の事實は（帝國主義者は既に×××時期に到達せり）と云ふ彼等自身

（二十三頁に續く）

創作

小鼓の音

中島安太郎

彼はどう考へてもそれが、はつきりしなかつた。退屈するといろんな事を思ひ出すのであるが、保元でもなく平治でもなくその以前かとは思つて見たがどうしても思ひ出せなかつた。そのくせ事柄だけはよく記憶してゐる、と云つて年代や人名がはつきりどころかうろ覺えにもしてはゐないのだ。謀が破れて敵のために追ひ込められてある山へにげ込んだ。そして地に洞をうがつて隠れてゐた、がその穴たるや尋常の穴ではない。外部から土で密閉して竹の管で空氣を洞中へ吸ひ込んでゐたのだつたが、木の根、草の根を分けてもと云ふ敵のきつい、せんさくの爲、とう／＼見付かつて、打首か、はりつけ、かになつた、兎にあれ殺されたと云ふ日本歴史のある、反逆者の末路だ。三成の最期にしたつて、これらと大差はない、あれだけの人物で、義朝のやうな末路、すべて反逆者は悲惨である。外は嵐が歇んだらしい、梢が靜かに冬枯の一と息をついてゐるこの靜寂は彼にとつて、また一つの悩みをもたらすのであつた。それはあの鼓のさえた音色と甲高い若い女の笑ひ聲であつた。はつはつはつは、はつはつはつは、と靜けさを破つてきこえるあの笑ひ聲、それから酒が唄はす、いろんな俚謡や流行俗歌など……時によると三味線の音色までがベンシヤンときこえて、四十位の年配の男のだみ聲にまじつて細い女の聲が、大木にまつはる白藤を思はせて漂ふて來る。

かんしんがあアー
またをくゞるも、アレヤ、ときよとをじいせいつうウー
ふまれしい、草にいもを、あれやはながさあくウ、ななころびやをき、うきよをじやあよう、心配するうなあよう――。

はつきりきこえて來る、あの合唱は彼にとつては欝陶しい禁獄生活の悩みを輕う抜いて、やんわりとぬくい別な悩みの煙をかぶせるやうに抑へつけた。彼が此處に擒ひられてから六十日、ぢつと、閉ぢ込められたまゝ調べの終るのを待たせられてゐたのであつたが、それが何時終ると云ふことが、勿論、彼自身にわからう筈もなかつた。この生れて始めの單調な生活になげ込まれて、患難の生活――をしんめりと味あはされた氣持と忌々しさは、クロポトキンの投牢捕縛――脱走の生活を思ひ出させたが、それにはMの言葉ではないが、廣いシベリアのやうな舞臺が必要なのだ。そうしたことをこのせまい日本と云ふ地域ではそれはあはれむ可き、空想のやうに思はれるのである。ロシアの革命家達のやうな、物語的な、芝居氣たつぷりな眞似が此の日本で、せゝつこましい、金のためには何ものをも犠牲にして辭せないやうな人達を相手にした場合には、そんなことは、全く、果敢ないひとつの空想にしか過ぎないことを知つたのである。今更のやうに彼は革命狂の面白半分の遊戯にしか過ぎないことに囚はれてゐた自己の淺はかな心理と、○○社一派の人達のあせつた、のぼりつめたあの時の行動などには何かしら悔しいほどの侮蔑を感ぜずにはゐられなかつた。そしていろんな理由からして自分と云ふものをあはれんで見たり悲しんでみたりした。三寸角もある此の牢格子の食物差入れに用ふるあの穴のやうに切り込んである、ところを鋸で一本切つたとしたら牢から出られる、その次は外の塀だ、あれを乘り越す工夫が必要だ。梯子があれば譯はないのだが、として先づ山を見宛に遁げるとする。木の實を拾つて命を繫ぐ。草の根を掘つて來ては食べる。それから國境を超えてと云ふ順序だが超えた境が隣縣では此の芝居は、やつぱりおどけた芝居にしか過ぎぬのだ。遁げ所がなくなつて山をうがつて土窟の生活を爲す可く竹の管で空氣を吸ふとなると歴史の誰かのやうにまた捕まりさうだ。よしそんなことがないにしても空想であるといふことだけは間違ひのない事實なのだから。小鼓のさえた音が一しきり聞えて來る、と彼は、清次郎のお冬を思ひ出さずにはゐられなかつた。七尾で生れて金澤で藝妓となり、ある大實業家の妾として東京に圍はれてゐるといふお冬姉さんの氣高い白芙蓉のやうな姿と、御殿のような遊廓などを――話聲が例の澄み切つた甲高い聲で何か客とふざけ遊びでもしてゐるのであるらしい、それにつれて男の聲が聞こえなければならないのであるがそれはなくて女の聲だけが聞こえて來る。それが彼の心を甘い悩みに引き入れずには置かなかつたのだ。捕はれてしかも彼の半生の灰色な砂漠を歩んで、水なきにかじる黒パンのやうな味はひある過去のライフ。若し小説に詩に歌に、女と戀と、甘い耳語きなどが必要なものであるならば、彼の一生には恐らく右の何ものもない涸れ切つた生活の記憶のかずかず――。かうしたことを考へると世の中の者どもは皆幸福だつた。尠くとも、彼の過去のライフなどに比較して問題にならぬほど幸福であつた。たしか辻と云ふ有名ではない思想家の言葉に、どんな專制政治下にすまふともたつた一人の自分を知つてゐて呉れる、そして自分にかしづいて呉

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

れる異性があつたら、何が何であらうとも俺は幸福でありうると信ずると云つたと云ふことだ。彼が女の肉聲を聞いてそれからうける壓迫をむしろ好もしくも考へられ、それが、聞えない時などは何となく物足りないので、いろんな空想を廻らしては兩性間の神秘を捕捉しやうとつとめたが、自己の經驗や讀書以外の一歩も外へ出ることが出來ないで、妄像の蛇がとぐろを卷いたり鎌首をもたげて踊つたりした。

夜がその夜であらうが鐚に時は持ち運ばれて暗て寒さとがひし／＼と入牢者達の身に逼つて來る。就寢近くなると例の獄卒がやつて來る、そして各監房の前を三四十枚ばかりの塵紙を握つて、ぶつきらぼうに聞き歩くのだ——紙持つとろかい——何と云ふ、無禮な不快な言葉であらう、けれど此處に囚はれてゐる、無産の民に取つては必要な體に比して遙かに大きく重かつた。腐れ切つた肥えだめの惡臭の中から引きずりあげた豚の生殖器を鼻さきへつきつけて、ほら。喰へ。——と云つたような調子の獄卒の言葉にも——旦那はん二枚ばかりくだはれ——。と云はざるを得ない者共の呪はしき境遇よ此の低い暗黒のレベルにすら生きなければならないと云ふ、そして怠惰とか、自暴自棄とかの惡名によつて、此處に投げ込む必要のある、それによつて治安が維持せられ枕を高ふして淫樂に耽ること出來る現代社會人の呪はしき生活よ。パビロンの如く思ひなからずんばあやまちあるに非ざるか——未來を廻る幻影はうす暗い。その先は闇だ。世のあざけりと蔑みの笑ひで——驅け出す事の出來ない前科の鐵丸をくゝりつけられたる左右の足。世に絹の布團がある、紅ひの布團がある。女と云ふ動物がある、彼等の爲に、享樂者の群、搾取人達の血みどろの手に收められてゐるではないか。それをしも氣付かないで酒に醉ひ痴れて——かんしんがあ——と唄つてゐるのだ。またそうでなくてはならないやうに、勝利者、現實は彼等に強ひてゐるのだ。——口惜しい。それこそなさけなくまた切ないことだ。

寒さが刻々に逼つて來る、彼はふるひあがつた。彼とは初犯初入の若い青年社會運動家である。初犯でもなく刑事被告人であるのだが遁れることの出來ない地位に置かれてゐると云ふことだけは爭はれはしまい暗示の力は常に斯く云ふ。パラパラパラと霰が降つて來た、その癖松の葉風に音もなく灰白の夜空に屹立してゐる。藩主居城時代の松に相違あるまい。夏ならば蟬も啼かう大木である。追想にうんで來ると、そんなことはどうだつていゝ、この不安を——消す爲に眠ることが——ある。たつたそれだけだ。その他には何ものもないのだ。けれどもその眠ることはまた彼を此の苦痛から救ふことは出來なかつた。飢えと云ふ奴は人を安眠なんぞさるゝ雅量なんてチツトもない奴なんだ。あのまづい團子のやうな麥の冷飯、それは四分六ではなくて、三分七であり、麥七——南京米三の割合なのである。彼れにとつては斯うしたことも、生れて始めての新らしい經驗であつた。牢屋の生活は惡人の末路を語る罪人の日送りである。姐妃のお百の牢屋の生活——大槻内藏之助、錢屋五兵衛、などいろんな意味の惡人の一人として我いま座して牢獄にあり。と彼はつぶやいた。けれどもけれども寒いこと、寒いこと。——就寢——。寢ろ！と云ふ號令なのだ。寢ることだ。小鼓の音が今宵は

坑夫の唄

菊地北深

爆發！　でつかい音だ
衝突が、たほれやしねいかと
くびを縮めた。

爆發の數日あとの
賣店に
二十圓札が數枚舞る。

生埋の　百人がとこは
死んぢまつた
二十圓札で　一切けりつく。

最大限　二十圓の命を
百斗り
石炭の代りに生でうづめる。

會社では、坑の破損と見舞金の
見積で今
忙しいんだ　と。

もつと燒けろ、五日も六日も
休みてい
人のかゝが　餘つて來らあ。

ひらんでもいゝのにかゝあ奴
がきをひるこれで五人目だ
くたばつちめい

半裸で　乳を　だぶつかせた
女達が　眞黒な顔で
ぬつと出て來る。

稼ぐに追つく貧乏が
ねいんだそうだ
俺はこれで稼がねいかしら。

こんな坑にいつまで居ても
しようがねい
腹のへる斗りが働き甲斐だ。

地の底の冷めたい水に
足入れて　トロと行き交ふ
亞炭坊の中

まだ――かすかに聞えてゐる。あのほん〳〵と云ふ音色の寂しさ切なさ。おゝ若い女よ、俺は發狂するぞ、止めて呉れ、その小鼓を打つことを。此の不幸なる、自ら憐む可きとなせる社會運動家は狂ひさうだ。その音色で深巻にして攻められる、富士で仁田四郎に刺し殺される前の猪だ。でなかつたらお前自身此の俺に白刄の劍を振り上げて、憐む可き此の男を嬲り殺しにしろ生命最後の汎濫だ。

ほのなまい便器の匂ひ、隣室の若い被告のいびき、冷たい煎餅布團の冷感滅却と彼れのまどろ？――驛の機關車の唯物的な荒い息づかい。その他は何もきこえない。あゝこの靜けさよ――現は未來へ轉げ飛ぶ。彼は間もなく眠り始めた。看守が、麻裏を履いてばたくさと一つ一つの房内を注意して覗き歩いた。異常なしと見た看守の瞳には優しい妻の、我を思ふ瞳のうるみが、パチリと閃いた。宿直室にゐたN看守は、此の市街で發行する夕刊新聞の、戀愛小説めいたものを讀んでゐた。燭の傍らには、帝國憲法解義全一冊の金文字が十五燭の電光にキラキラと光つてゐた。火鉢の炭はてりかへつて鐵びんからは熱い湯氣を吹いてゐる。外は雪が降つてゐる――小鼓の音がまだ幽かにそれが快く看守には聞けた。――終――

――七、三〇――

編輯だより

■昭和二年最後の編輯だから、うんと力を入れようと思つてゐたが、仲々思ふ樣には行かぬものだ。しかし、本月號は仲々の力作がのつてゐる。毎月多忙なる中を丁寧に書いてくださる布施辰治氏及び長尾桃郎氏、淺野研眞氏等に對しては常に感謝してゐる。

■來年こそ、寄稿家諸氏、及び讀者諸君の後援によつてウンと戰闘的雜誌を盛りたてようと考へてゐる。

一月號はどう發展するか、諸君の想像にお任せして置く。

■全土戰報もいゝものが盛んに集つてくる。今後全土戰報を掲載した人に對しては進め社メダルを送る事にする。

■「進め社」の演説會の事に就いては、本號の何處かへ書いておいたからよく見ていたゞきたい。

■政友會内閣の無能の數々、勞働農民黨の注目すべき方針の變化・日本の社會運動は愈々多事ならんとする。昭和三年度の吾等の運動は一層の緊張を必要とする。

■では、全國三万五千の讀者諸君、益々健康なれ。

号外

一九二八年
一月號五十錢

階級的バクロ雜誌

國際バクロ漫畫二十枚
公判廷より見たる朝鮮共産黨事件
反動内閣滿蒙の地に言論の自由を閉塞す
地主救濟策たる木材の關税引上並に殖林に對し二億の補助に反對せよ
警視廳商人とグルで猥畫密賣
田中の魔手馬場を手先に勸銀に迫る
田中の反動網市町村農會に及
近時瀕發の拷問體驗記
名古屋市に嫌はれた陸軍大演習
不當檢閲されるの記（出版、展覽、上演上映關係者諸家）
我等は政府にかく肉迫す（各無産黨無産團體）
讀者名簿をスパイに渡した××書店
議會罪惡史プロレ文藝數篇
その他政治、經濟社會、藝術等各方面の階級的バクロ記事數十篇

東京芝乗房町
東京記者聯盟發行

清新な趣味と實用に綾なす

内外のあらゆる流行品豊富

地方よりの御註文は御手紙にて通信販賣部宛に御願ひ申します

三越呉服店

大阪市高麗橋

婦人良薬

喜谷實母散

産前、産後、血の道、引風、冷込等に特効有

▲全國到る處に販賣す

本舗
東京京橋區中橋大鋸町
喜谷市郎右衛門
電話京橋五五番 五六番

榮養價の豊なる

アサヒ黒ビール

サッポロ黒ビール

布施辰治主幹

法律戰線

◇階級闘争の合法戰術！
◇暴壓法令の突破逆用！

一部十錢・半年六十錢・一ヶ年一圓廿錢

發行所 東京・高田町雜司ヶ谷八一五 振替東京第三六四五五番

商品券

受けて重寶！贈るに便利！

東京、大阪、神戸の本支店各出張店共通

安く賣る店 買ひよき店

大阪 白木屋 堺筋

本店 東京日本橋 出張店 戸越川

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大正十二年一月三十日第三種郵便物認可
昭和二年十二月一日發行
同年十一月廿八日印刷納本
第五年第十二號
毎月一回一日發行
定價一部十錢（税五厘）半年六十錢 一年一圓（税共）
廣告料 一行一圓 一頁三百圓
發行所 東京市外大井町鈴ヶ森海岸一八九〇（振替東京六九八五三） 進め社本部
發行編輯兼印刷人 福田狂二 大阪市東淀川區十三西之町一三一 大阪事務所